Ⅰ　研究経過

英語教員研修研究会は、英語教育の改革に直接係わる要因として、教員の資質向上と教員を取り巻く環境に問題があると捉え、その改善の方策を研究する目的で科研費基盤研究(B)を申請し、これが受理されて平成12年度から研究を開始した。当初の研究目的は次の4点である。

⑴　各都道府県で行われている「5年次および10年次教員対象の研修」に参加した教員にアンケート調査を実施し、彼等の研修と授業に対する意識調査を行う。それにより、彼等の研修を妨げている原因・理由を特定し、それを是正する方策と共に、改善研修プログラムを提案する。
⑵　各都道府県で行われている英語教員研修を主催する指導主事に面接して、行政側から見た研修プログラムの有用性、問題点等について実態を把握する。それを基に、英語教員研修がより効果的に行うための改善策を具体的に提示する。
⑶　海外の先進的教員研修プログラムを調査し、その先進性をわが国で導入する可能性を検討する。調査対象は、韓国、中国、シンガポールの英語担当教員対象プログラム、アメリカ・カナダのESL（English as a Second Language）担当教員対象プログラム等である。
⑷　上記の研究に基づき、わが国の英語教員を対象とした「コミュニケーション指導技術および英語運用力を向上させるプログラム」を作成し、同時に教科指導力を評価する枠組みを提示する。

本研究の初年度である平成12年度は、群馬県、福島県、茨城県、高知県、埼玉県、青森県の初任者研修会、5年次ないし10年次研修会、および文部省指導者講習会に参加した中学校・高校現職教員計344名を対象に「自己研修に関する実態調査」を行った。その結果、「日常的に自己研修をしている教員」の数は、そうでない教員の数より少ないものの、「自己研修の必要を感じている教員」の数は、「感じていない教員」の数より圧倒的に多いことが判明した。また、同時に教員が望んでいる自己研修の目的は、⑴「英語のコミュニケーション能力を高めるため」、⑵「授業力を高めるため」、⑶「総合的な英語力を高めるため」が圧倒的な多数を占めることも明らかになった。

平成13年度は、前年度の調査結果を踏まえて、調査の規模を拡大し全国調査を実施した。調査対象校として中学校1,891（全国11,191校の16.9%）および高校1,110校（全国5,479校の20.3%）の計3,001校を抽出し、多肢選択法によるアンケートを行った。質問内容は、⑴「教授法や指導に関する研修について」(研修場所・期間・方法、校外研修機関、希望する研修内容)、⑵「教員の英語運用力について」(望ましい英語運用力、英語運用力を向上させるための研修)、⑶「英語科内の研修について」(活発にする方法、研修の可能性、研修の費用、研修評価に対する賛否、研修成果の評価者、研修評価の方法)、⑷「教員の英語力について」(英語能力試験の受験の有無、試験結果、英語授業を行う英語力、英語力向上のための実践方法)、

⑸「定期試験について」（定期試験の実施回数、試験範囲、試験項目、試験実施の目的）等である。

平成14年度当初の研究目的は、各都道府県で主催する英語教員研修の担当研修指導主事を対象として、行政側から見た研修プログラムの問題点等について実態調査をすることであった。しかし、平成14年７月に文部科学省から『「英語が使える日本人」の育成のための戦力構想』が発表され、平成15年度から全国の公立中学・高等学校の現職英語教員を対象に、悉皆研修を実施することが決まった。それに伴い、各都道府県の研修指導主事に文部科学省から具体的な研修の指針が提示され、15年度に全国規模で研修実施される可能性が高いことが予測されたために、当初の研究計画を急遽変更することとなった。国内の研修プログラム調査の代わりに、アジア近隣諸国にモデルを求めることを目的として中華人民共和国（中国）とシンガポールの先進的研修プログラムを調査した。特に、中国においては政府教育部、師範大学、師範学院等の諸機関に赴き、言語政策、教員養成・現職教員研修の責任者に面接調査を行い、関係資料・情報を入手した。また同時に、国内研究として「英語教員が備えるべき教授力」について国内外の文献研究を行った。さらに、国内では「英語教授力に関する試行調査」を実施した。

最終年度の平成15年度では、全国的に実施された「英語教員集中研修」の受講者を対象に、「研修直後」のアンケートと「研修２ヶ月後」のアンケート調査を実施した。この目的は研修を受講した教員の意識の変化を探り、より効果的な研修を策定するための基礎資料を入手することであった。「研修直後」のアンケートは、「英語運用能力の向上に関する項目」、「授業方法に工夫に関する項目」、「授業の反省・評価・計画・準備の工夫に関する項目」、「専門知識や指導技術に関する項目」、「研修の自己評価に関する項目」および自由記述を含め25項目、「研修２ヶ月後」のアンケートは、「授業外の英語使用量に関する項目」、「授業方法の工夫に関する項目」、「授業の反省・計画・準備の工夫に関する項目」、「自己および協同研修に関する項目」について22の質問項目から成っている。これらのアンケート調査結果をまとめたものが本『研究成果報告書』である。

Ⅱ　調査目的

本調査の目的は、「英語教員集中研修」の受講者が研究参加によって何を学び、いかなる影響を受けたと感じたか、さらに研修に対してどのような評価をしたかを全国規模で調査することによって、今後の集中研修をさらに充実させるための資料を入手することである。この目的のために、アンケート調査の実施時期を「研修直後」と「研修2ヶ月後」とした。これらのアンケートには多肢選択法を採用したが、「研修直後」のアンケートには、自由記述法も採用した。

「研修直後」のアンケートには、「英語運用力の向上」、「授業方法の工夫」、「授業の反省・評価・計画・準備工夫」、「専門知識や指導技術」、「研修の自己評価」、「授業および指導の変化」等に関する24項目と自由記述欄を、「2ヶ月後」のアンケートには、「授業外の英語使用量」、「授業方法の工夫」、「授業の反省・評価・計画・準備の工夫」、「自己および協同研修」、「授業および指導の変化」に関する22の質問項目を設けた。

これら2種類のアンケートの中で、特に「授業方法の工夫」、「授業の反省・評価・計画・準備工夫」、「授業および指導の変化」については類似の質問を用いた。その理由は、研修後の時間的経過によって受講者の研修に対する意識がどのように変化したかを調査するためである。

Ⅲ　調査方法等

調査対象の教育センター・教育委員会、および調査対象者の選定は、次の方法に拠った。

１．調査対象の教育センター・教育委員会の選定

全国の都道府県・政令指定都市・中核市教育委員会（95団体）のすべてにアンケート協力依頼文書を送付した。その結果、平成15年度に「英語教員集中研修」を実施予定の66教育委員会のうち、調査協力の回答を得た32教育委員会に対して、正式にアンケート調査の要請を行った。

２．調査対象者

「研修直前」および「２ヶ月後」のアンケートの対象者は、調査協力に応じた教育委員会主催の「英語教員集中研修」の受講者である。「研修直後」のアンケート回答数は2,292通、「２ヵ月後」のアンケート回答数は1,082通である。なお、文科省が発表した平成15年度に「英語教員集中研修」を実施した教育委員会は66、またその受講者総数は8,053名であった。

３．回答方法

「研修直後」のアンケートにはマークシートと自由記述用紙、そして「２ヶ月後」のアンケートには、回答用紙を用いた。また、アンケートは、マークシートおよび自由記述共に無記名回答とした。

４．送付方法

「研修直後」のアンケート、および「２ヶ月後」のアンケートの回答に必要な文書類は、調査協力を引き受けてくれた教育委員会の研修担当主事宛に一括送付し、両アンケートを研修会場で受講者に配布するよう依頼した。

５．回収方法

「研修直後」のアンケートは、「研修終了までに回答し、回答用マークシートを研修担当者に提出後、担当者が一括して本研究会に返送」の方法を採った。また、「２ヶ月後」のアンケートは、研修終了後に受講者が持ち帰り、回答方法は回答用マークシートを受講者が添付の料金後納封筒を用いて本研究会に返送するか、ファックス、インターネット、Ｅメールを利用して本研究会宛に直接返送してもらうこととした。

Ⅳ　結果⑴―アンケート（多肢選択）結果―

「研修直後」と「研修２ヵ月後」のアンケート回答数の内訳は表１の通りである。

表１　アンケート回答数（通）

	中学校	高　校	その他	無回答	合　計
研修直後	1,129	1,080	36	47	2,292
研修２ヵ月後	541	477	17	47	1,082

表１の「その他」は主に養護学校、「無回答」は学校種の記載がない回答である。本稿では、この２種の回答を除き、「中学校」「高校」からの回答のみを対象とする。ただし、すべての項目別回答数および構成比は資料に掲載する。

また、結果報告が複雑で読みにくくなることを防ぐために、まず自由記述を除くアンケート結果の概要を示し、その後に個別の項目を扱う。個別の項目では、質問の内容に沿って項目を分類し、必要な情報のみを図によって示す。構成は以下の通りである。

１．アンケート結果の概要
- ⑴　「研修直後」のアンケート結果の概要（質問項目１～21）
- ⑵　「研修２ヵ月後」のアンケート結果の概要（質問項目１～19）
- ⑶　結果概要⑴⑵からの考察
- ⑷　授業および指導の変化に関する回答結果と考察（直後：質問項目22～24、２ヵ月後：質問項目20～22）

２．「研修直後」のアンケート結果
- ⑴　英語運用能力の向上に関する項目
- ⑵　授業方法の工夫に関する項目
- ⑶　授業の反省・評価・計画・準備の工夫に関する項目
- ⑷　専門知識や指導技術に関する項目
- ⑸　研修の自己評価に関する項目

３．「研修２ヵ月後」のアンケート結果
- ⑴　授業外の英語使用量に関する項目
- ⑵　授業方法の変化に関する項目
- ⑶　授業の反省・評価・計画・準備の変化に関する項目
- ⑷　自己および協同研修に関する項目

１．アンケート結果の概要

⑴「研修直後」のアンケート結果の概要

①　アンケート調査項目

「直後」のアンケート調査項目は以下の通りである。回答方法は、１～21に関しては、それぞれの項目に対して、次のスケールでマークシートにマークして頂いた。

5　そう思う
4　どちらかというとそう思う
3　どちらとも言えない
2　どちらかというとそう思わない
1　そう思わない
0　該当せず

なお、各項目の文尾の括弧内の語句はそれぞれの項目の略語で、今後は各項目標記としてこの略語を使用するものとする。

【アンケート質問項目】

1．自分自身の発音能力の向上に役立った。（**発音向上**）
2．自分自身の語彙力や文法力の向上に役立った。（**自分語彙**）
3．自分自身の英語運用能力を向上させるために、今後は自己研鑽に努めたりその方法を工夫したりする。（**自己研鑽**）
4．生徒の「聞く力」を向上させるために、今後は授業方法を一層工夫する。（**聴力工夫**）
5．生徒の「読む力」を向上させるために、今後は授業方法を一層工夫する。（**読力工夫**）
6．生徒の「書く力」を向上させるために、今後は授業方法を一層工夫する。（**書力工夫**）
7．生徒の「話す力」を向上させるために、今後は授業方法を一層工夫する。（**話力工夫**）
8．生徒に対する評価の方法を今後は一層工夫する。（**評価工夫**）
9．自分が行っている授業を批判的な態度で反省しながら、今後は絶えず改善していく。（**授業改善**）
10. 生徒の動機付けの方法を今後は一層工夫する。（**動機付け**）
11. 4技能の関連を図った指導について、今後は一層工夫する。（**4技能工夫**）
12. 自分の今後の授業に様々なコミュニケーション活動を増やす。（**コミュ活動**）
13. Special Lectures を聞いて参考になった。（**Lecture**）
14. 自分が考えている英語指導のアイディアを発展させることができた。（**自分アイディア**）
15. 研修に参加した他の先生の英語指導についてのアイディアが参考になった。（**他人アイディア**）
16. 研修に参加するために用意した My Own Goals（自己到達目標）を達成することができた。（**My Goals**）
17. 研修に参加するために用意した Self-diagnosis（自己診断）は適切であった。（**Self-diagnosis**）
18. ポートフォリオを今後有効に活用する。（**ポートフォリオ**）
19. 今回の研修は、英語教師に必要な英語運用能力の向上に効果があった。（**運用能力**）
20. 今回の研修は、英語指導に必要な「専門知識や指導技術」の向上に効果があった。（**知識技術**）
21. 今回の研修は、英語能力試験（英検、TOEFL、TOEIC 等）の受験に役立つと思う。（**能力試験**）

② 結果概要

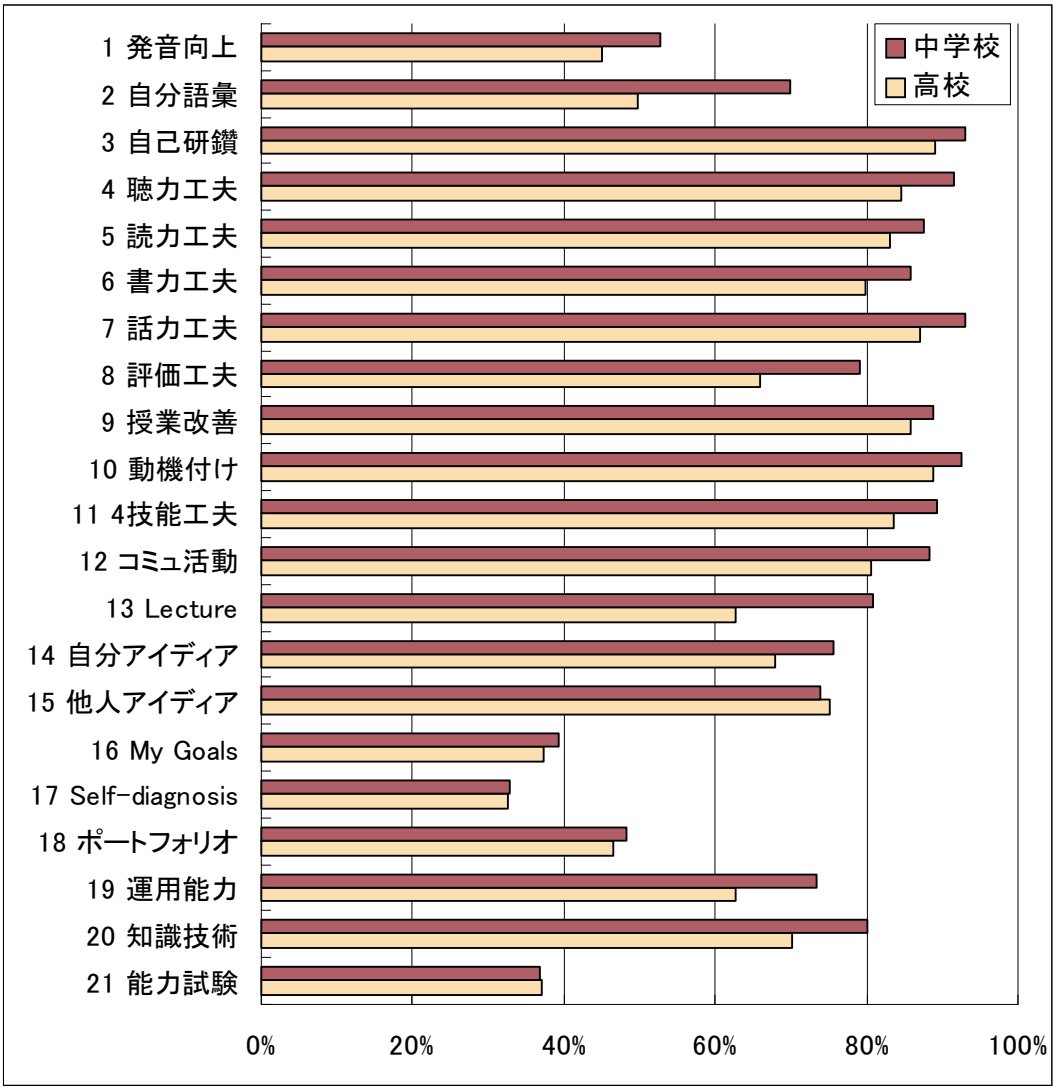


図1　直後：「どちらかというとそう思う」「そう思う」の合計構成比

図1は、質問項目1～21の回答のうち、「4どちらかというとそう思う」（以降4レベル）、「5そう思う」（以降5レベル）の合計構成比を中学校・高校別に集計したものである。

⑵ 「研修2ヶ月後」のアンケート結果の概要

① アンケート調査項目

「2ヶ月後」のアンケート調査項目は以下の通りである。回答方法は、1～19に関しては、それぞれの項目に対して、次のスケールで回答用紙にマークして頂いた。

5　そう思う
4　どちらかというとそう思う
3　どちらとも言えない
2　どちらかというとそう思わない
1　そう思わない
0　該当せず

なお、各項目の文尾の括弧内の語句はそれぞれの項目の略語で、今後は各項目標記としてこの略語を使用するものとする。

【アンケート質問項目】

1．研修受講前と比べて自分自身の日常的に英語を読む量や機会が増えた。**（英語読量）**

2．研修受講前と比べて自分自身の日常的に英語を聞く量や機会が増えた。**（英語聴量）**

3．研修受講前と比べて自分自身の日常的に英語を話す量や機会が増えた。**（英語話量）**

4．研修受講前と比べて自分自身の日常的に英語を書く量や機会が増えた。**（英語書量）**

5．研修受講前と比べて自分自身の日常的に授業で英語を使う量や機会が増えた。**（授業英使）**

6．研修受講前と比べて英語指導に必要な専門知識や指導技術が向上した。**（知技向上）**

7．研修受講前と比べて自分自身の英語の発音に自信が持てるようになった。**（発音自信）**

8．生徒の「聞く力」を向上させるための授業方法が研修受講前と比べて変化した。**（聴力授業）**

9．生徒の「読む力」を向上させるための授業方法が研修受講前と比べて変化した。**（読力授業）**

10．生徒の「書く力」を向上させるための授業方法が研修受講前と比べて変化した。**（書力授業）**

11．生徒の「話す力」を向上させるための授業方法が研修受講前と比べて変化した。**（話力授業）**

12．研修受講前と比べて生徒に対する評価方法が変化した。**（評価変化）**

13．研修受講前と比べて、自分が行っている授業を批判的な態度で反省しながら、絶えず改善するようになった。**（批判改善）**

14．研修受講前と比べて、生徒の動機付けの方法が変化した。**（動機付変化）**

15．４技能の関連を図った指導の方法が研修受講前と比べて変化した。**（４技能指導）**

16．研修受講前と比べてコミュニケーション活動を自分の授業に多く取り入れている。**（コミュ授業）**

17．ポートフォリオを有効に活用している。**（ポート活用）**

18．研修受講前に比べて自主研修の目標や方法が明確になった。**（自主研修）**

19. 自校や周囲の学校の教員間で、授業研究などのコミュニケーションを図る機会が増えた。 **（授業研究）**

② 結果概要

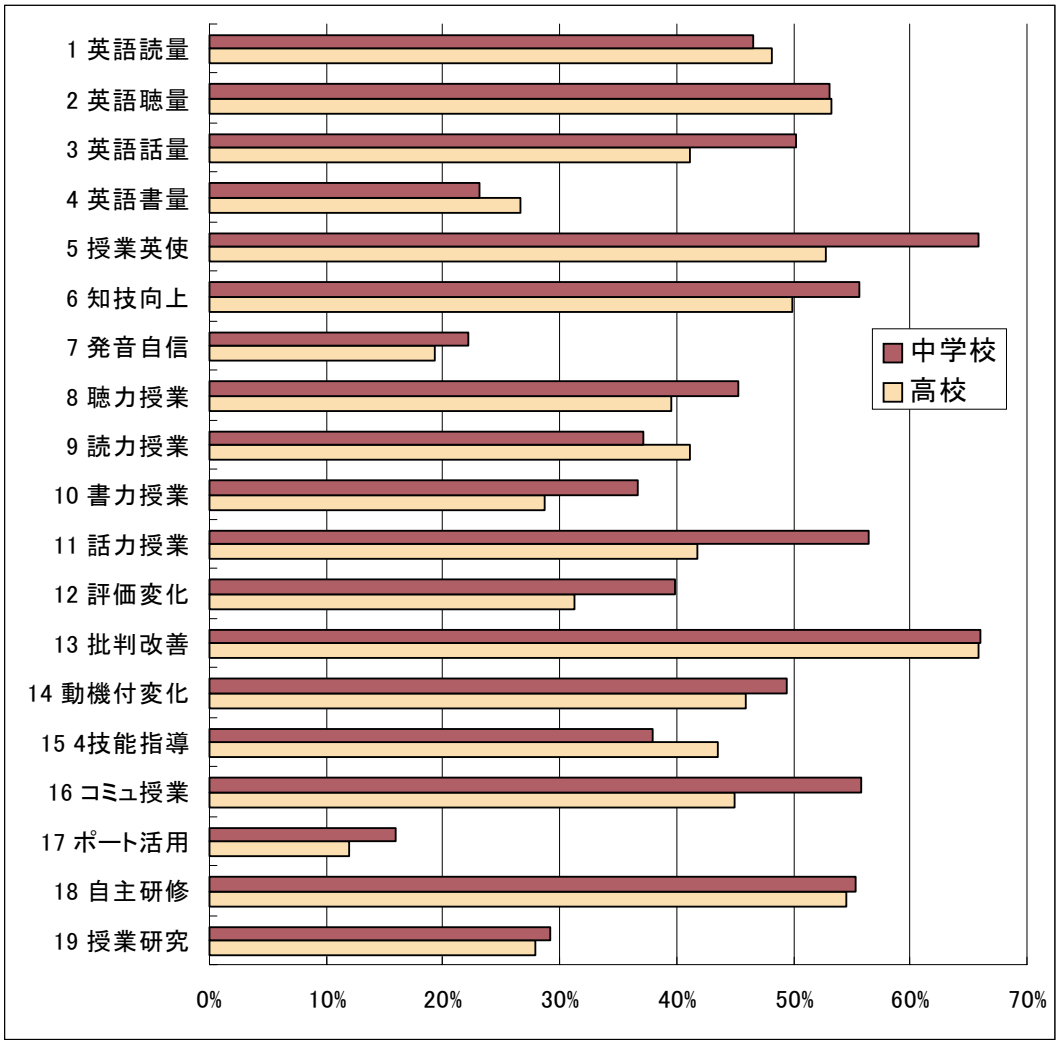


図２　２ヶ月後：「どちらかというとそう思う」「そう思う」の合計構成比

図２は、質問項目１～19の回答のうち、４レベル、５レベルの合計構成比を中学校・高校別に集計したものである。

⑶ 結果概要⑴⑵からの考察

１）今回の研修は、全体として効果があったと考えられる。研修のインパクトは、高校教員より中学校教員の方が大きかったと判定できる。

２）今回の研修で最も効果が現れたのは、中・高を問わず、「授業を批判的な態度で反省しながら、絶えず改善する」という項目である。

３）直後において、日常の自己研修と関連する「My Own Goals（自己到達目

標）の達成」、および、「Self-diagnosis（自己診断）の適切さ」に対する4レベル以上の肯定的回答構成比は、他の項目と比べ低かったが、2ヵ月後において「自主研修の目標や方法が明確になった」が中・高そろって構成比が高かった。これは、今回の研修が、教員の自主あるいは自己研修に対する意識を変化させるのに役立った結果と推測される。

4）直後において「話す力を向上させるための授業の工夫」と「コミュニケーション活動を増やす」ことを心がけようとする肯定的回答の構成比（85%前後）が高かった。2ヵ月後でも、特に多くの中学校教員において、この傾向が保持されていると考えられる。これは、中学校では2ヵ月後の「日常的に授業で英語を使う量や機会が増えた」の構成比が高いことと何らかの相関があると考えられる。一方、高校では、中学ほど直後の構成比を保持しているとはいえない。中学校と高校での教科書、教材、言語材料、指導法などの違いが出ているものと推測される。

5）直後において「動機付けの方法を一層工夫する」が最も高い構成比（85%程度）を示した項目のひとつであったが、2ヵ月後では50%を割った。教育現場と生徒の多様化の中、動機付け方法の難しさを物語るものと考えられる。

6）直後で最も高い構成比を示しているもうひとつの項目は、「英語運用能力を向上させるために、今後自己研鑽に努めたりその方法を工夫したりする」である。2ヵ月後の結果では、「聞く量」の増えた比率が中・高とも50%を超えて一番高い。また、「話す量」は中学校で50%程度であるが、高校では40%強となる。一方、「読む量」「書く量」では高校のほうが高いが、「書く量」は20%台で4技能では最も低くなっている。英語運用力向上のための自己研修のやりやすさは、「聞く」「話す」「読む」「書く」の順になるであろうことが推測される。研修直後の刺激から考えると、2ヵ月後の結果は物足りなさを感じるが、研修によって英語運用力向上に対する意識改革が進んだと見るほうが妥当であろう。

7）「ポートフォリオ」については、まだ十分理解されていないと考えられる。

8）中学校と高校で肯定的構成比に大きな差が出た項目については、今後の研修において、別個のプログラムを用意する必要があると考えられる。

⑷ 授業および指導の変化に関する回答結果と考察

この質問項目のねらいは、悉皆研修を終了した直後に、各教員が自分の授業において増やしたいと思う活動と2ヶ月後にそれがどう変化したのかを調査し、研修の成果を評価することにある。

①「研修直後」の結果

質問項目22～24では、今後、変えたいと思う点を順番に3つ選んでもらった。

【選択項目】

1．教師の英語使用を増やす（英語使用）
2．授業計画をきちんと立てる（授業計画）
3．音読を工夫する（音読指導）
4．生徒の発表の機会数を増やす（発表機会）
5．コミュニケーション活動を増やす（コミ活動）

6．語彙指導を工夫する（語彙指導）
7．読解指導を工夫する（読解指導）
8．英作文指導を工夫する（作文指導）
9．変えるところはない
10．その他、お手数ですが、このシートの右にあります「その他の欄」にお書きください。

データ処理方法は、教員が1番目として選んだ項目に3ポイント、2番目として選んだ項目に2ポイント、3番目として選んだ項目に1ポイント与えて、各項目の総ポイントを集計した。構成比を示すために、各項目の総ポイントを6と回答者の総数で割り、百倍したものをパーセントで表示した。

表2　研修直後のアンケート結果

項　　目	中　学	高　校	その他	無回答	合　計
教室内での自身の英語使用を増やす	24.5%	20.8%	19.4%	18.1%	655人
明確な授業計画を立てる	18.8%	17.6%	18.1%	16.0%	577人
コミュニケーション活動を増やす	21.9%	18.6%	23.6%	22.0%	449人
生徒の発表の機会を増やす	11.2%	12.3%	11.1%	18.1%	166人
読解指導を工夫する	3.5%	8.1%	1.4%	6.0%	122人
音読指導を工夫する	5.9%	7.3%	4.6%	8.5%	116人
リスニング指導を工夫する	5.0%	5.8%	4.2%	2.1%	69人
英作文指導を工夫する	3.7%	2.9%	0.5%	2.1%	42人
語彙指導を工夫する	2.9%	2.8%	5.1%	1.8%	35人
文法指導を工夫する	1.7%	1.6%	5.1%	1.1%	19人
無回答とその他	0.9%	2.3%	6.9%	4.3%	42人
合計人数	1,129	1,080	36	47	2,292

研修直後のアンケートでは、「教室内での自身の英語使用を増やす」、「明確な授業計画を立てる」、「コミュニケーション活動を増やす」が、中学校の先生及び高校の先生が、今後増やしたい活動のベスト3であった。これを上位7項目までに広げ、グラフ化したものが図3である。

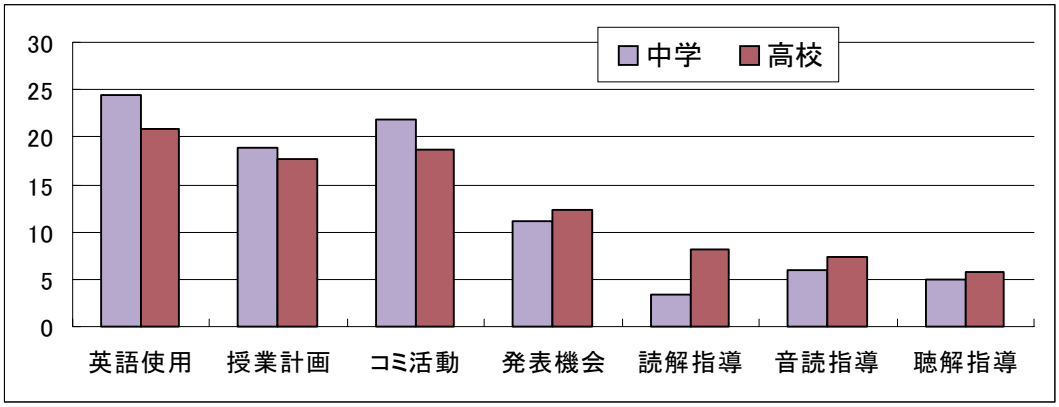


図３　研修直後の中学校と高校の教員が増やしたいと思った上位７項目

上位７項目までで考えてみると、中学校の先生と高校の先生で大きな差が出てくるのが「読解指導」であることがわかる。これは、高校の先生の方が、大学入試を意識した結果であると考えられる。

②　「研修２ヶ月後」の結果

質問項目20～22は、以下の項目で、研修受講前とその後の授業を比較して変化した点を順番に３つ選んでもらった。データ処理方法は、直後と同様である。

【選択項目】

１．明確な目標を持った授業計画を立てている（授業計画）
２．教室での自信の英語使用を増やしている（英語使用）
３．生徒の発表の機会を増やしている（発表機会）
４．コミュニケーション活動を増している（コミ活動）
５．リスニング指導を工夫している（聴解指導）
６．音読指導を工夫している（音読指導）
７．語彙指導を工夫している（語彙指導）
８．読解指導を工夫している（読解指導）
９．英作文指導を工夫している（作文指導）
10．文法指導を工夫している（文法指導）

表３　研修２ヶ月後のアンケート結果

項　　目	中　学	高　校	その他	無回答	合　計
教室内での自身の英語使用を増やしている	25.0%	18.8%	23.5%	23.0%	330人
コミュニケーション活動を増やしている	19.3%	12.5%	18.6%	17.7%	156人
明確な授業計画を立てている	11.4%	11.9%	10.8%	12.4%	144人
音読指導を工夫している	9.8%	11.8%	4.9%	9.6%	116人
生徒の発表の機会を増やしている	11.6%	12.4%	11.8%	10.3%	99人
読解指導を工夫している	2.2%	8.2%	0.0%	3.9%	54人
リスニング指導を工夫している	5.9%	7.7%	5.9%	4.6%	48人
文法指導を工夫している	4.0%	4.2%	0.0%	1.1%	33人
語彙指導を工夫している	3.0%	4.5%	2.9%	4.6%	26人
英作文指導を工夫している	4.3%	2.4%	2.9%	0.4%	23人
無回答	3.5%	5.5%	18.6%	12.4%	53人
合計人数	541	477	17	47	1,082

調査対象の数が研修２ヶ月後のアンケートは半数になったが、この２ヶ月後のアンケートでは、「教室内での自身の英語使用を増やす」、「明確な授業計画を立てる」、「コミュニケーション活動を増やす」が、中学校の先生及び高校の先生が、現在変化している活動のベスト３であった。これを上位７項目までに広げ、グラフ化したものが図２である。

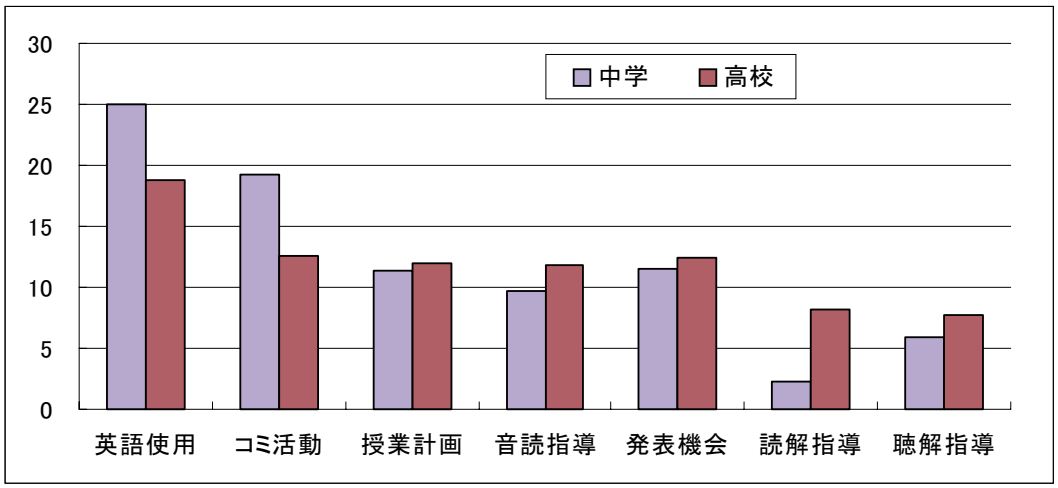


図４　研修２ヶ月後の中学校と高校の教員が変化していると答えた上位７項目

研修を受講して、２ヶ月たった時点では、「教室内での自身の英語使用の増加」

と「コミュニケーション活動の増加」において、変化が見られ、中学校の教員と高校の教員では差が開いたといえる。

③「研修直後」と「研修２ヵ月後」の比較

表４　中学校と高校の「研修直後」と「研修２ヶ月後」の比較表

項　　目	研修直後		２ヶ月後	
	中　学	高　校	中　学	高　校
教室内での自身の英語使用を増やす	24.5%	20.8%	25.0%	18.8%
コミュニケーション活動を増やす	21.9%	18.6%	19.3%	12.5%
生徒の発表の機会を増やす	11.2%	12.3%	11.6%	12.4%
明確な授業計画を立てる	18.8%	17.6%	11.4%	11.9%
音読指導を工夫する	5.9%	7.3%	9.8%	11.8%
リスニング指導を工夫する	5.0%	5.8%	5.9%	7.7%
読解指導を工夫する	3.5%	8.1%	2.2%	8.2%
文法指導を工夫する	1.7%	1.6%	4.0%	4.2%
語彙指導を工夫する	2.9%	2.8%	3.0%	4.5%
英作文指導を工夫する	3.7%	2.9%	4.3%	2.4%
無回答とその他	0.9%	2.3%	3.5%	5.5%
合計人数	1129	1080	541	477

次に、中学校の教員が、研修直後に「変化させたいと思っていた活動」と２ヶ月後経って「変わっていると思っている活動」を上位７項目で比較をしてみたのが図５である。

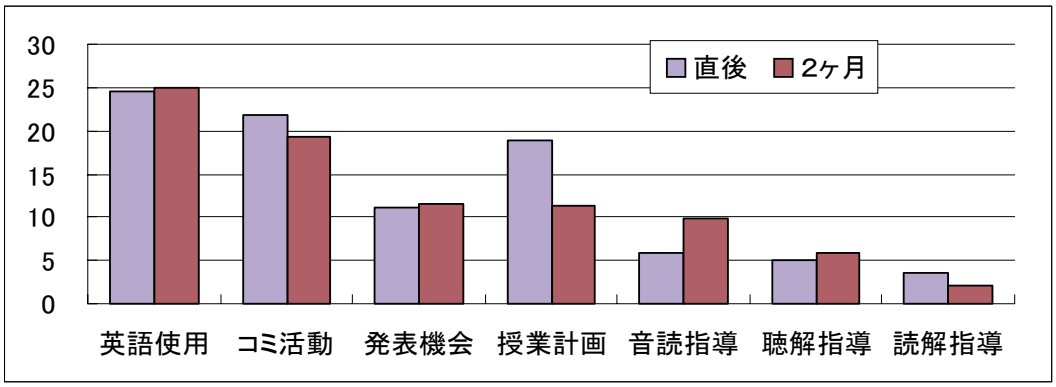


図５　中学教員の研修直後と２ヶ月後の比較

図５から、中学校の教員の研修直後と２ヶ月後大きく変化しているのが「明確な

授業計画を立てる」ことと「音読指導を工夫する」である。研修直後に感じていたより実際に実施してみると、明確な計画は立てにくいということであろう。また、「読解指導」は、思っていたより工夫しやすいと言えるのであろう。

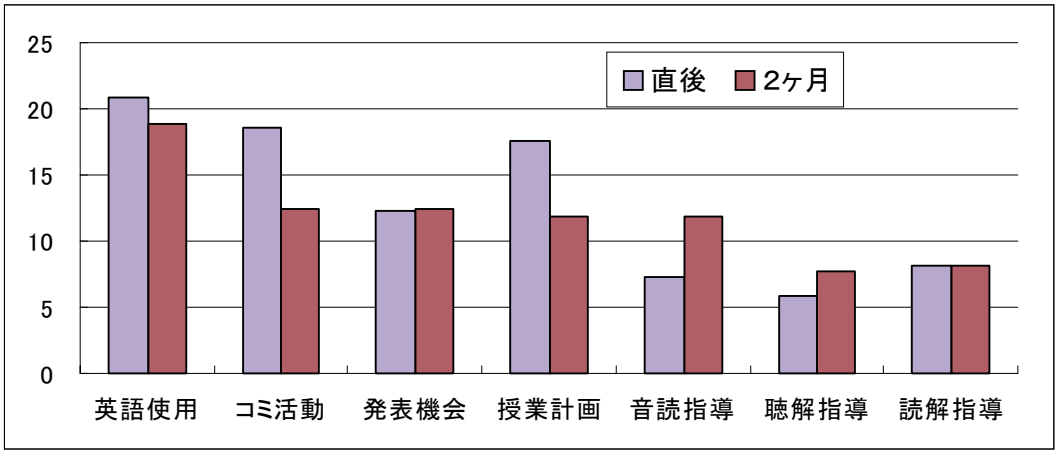


図6　高校教員の研修直後と2ヶ月後の比較

図6から、高校の教員の研修直後と2ヶ月後大きく変化しているのが、「コミュニケーション活動を工夫する」、「明確な授業計画を立てる」ことと「音読指導を工夫する」である。研修直後に感じていたより実際に実施してみると、高校では「コミュニケーション活動がしにくい」という実態があるのであろう。明確な計画は立てにくいということと「読解指導」は、中学校の結果と同じで興味深い。

2.「研修直後」のアンケート結果

1～21の質問項目に対する回答結果を、次のように分類して検討する。

⑴　英語運用能力の向上に関する項目
- 1．発音向上
- 2．自分語彙
- 3．自己研鑽
- 19．運用能力
- 21．能力試験

⑵　授業方法の工夫に関する項目
- 4．聴力工夫
- 5．読力工夫
- 6．書力工夫
- 7．話力工夫
- 11．4技能工夫
- 12．コミュ活動

⑶　授業の反省・評価・計画・準備の工夫に関する項目
- 8．評価工夫
- 9．授業改善

10. 動機付け
14. 自分アイディア
15. 他人アイディア
18. ポートフォリオ

⑷ 専門知識や指導技術に関する項目
13. Lecture
20. 知識技術

⑸ 研修の自己評価に関する項目
16. My Goals
17. Self-diagnosis

⑴ 英語運用能力の向上に関する項目

25問の質問項目のうち、英語運用能力に関わる項目は、
1．発音向上　2．自分語彙　3．自己研鑽　19. 運用能力　21. 能力試験
の5問である。この5問は教授力や授業力よりも英語力そのものに焦点をあてている。英語力の目標値が設定された以上、英語力向上をテーマの一つとして研修が行われたであろうとの推測に基づく項目である。

① 1．発音向上

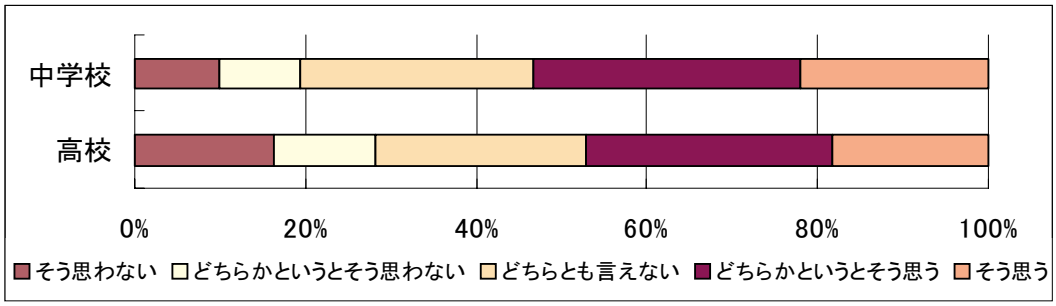


図7　直後：発音向上

中学校の教員では、4「どちらかというとそう思う」、5「そう思う」のレベルを 合せると52%余りが「役に立った」と回答している。一方、高校では約45%である。どちらも低い数値とは言えない。「どちらかというとそう思わない」（以降2レベル）と「そう思わない」（以降1レベル）を合せると、中学校では20%弱、高校でも27%程度なので、この研修が、かなり多くの教員の英語発音能力向上に寄与した部分があったことを窺がわせる。（資料－表1参照）

② 2．自分語彙

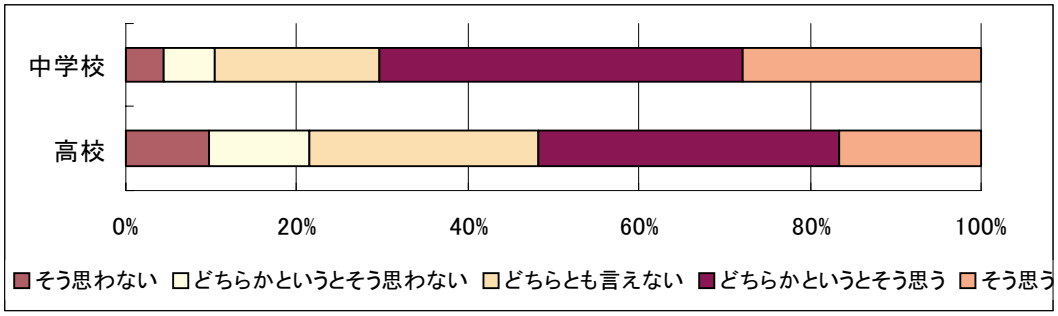


図 8　直後：自分語彙

発音と比べ、中・高とも 4 レベル以上の比率が高い。特に、中学校では 4 と 5 レベルを合せると、約70%が向上したと答えている。それに対し高校は50%弱で、中・高の差が歴然と現れている。1、2 レベルでは、中学校が10%強、高校が20%強で 4 と 5 レベルほどの差はない。中学校教員にとって、この研修が語彙・文法力の必要性を認識させる効果が十分にあったと言える。また、高校教員にとっても、研修が有効なものであったと考えられる。(資料－表 2 参照)

③ 3．自己研鑽

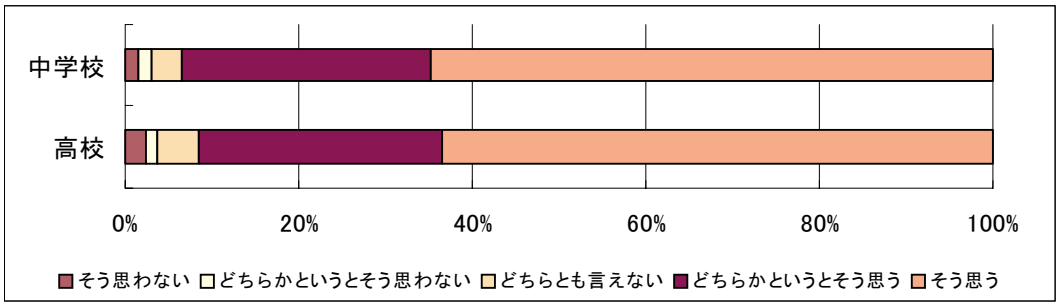


図 9　直後：自己研鑽

中学校では92%、高校でも89%が 4 レベル以上、さらに、5 レベルで中・高そろって60%以上の回答をしているのは、この研修が英語力向上への動機や意欲を十分に掻き立てるものであったと言える。ただし、研修の直後は、概して興奮状態であるため、この種の質問に関してはこのような結果が出やすい。2 ヵ月後の調査結果を見て、研修の効果を判断する必要があろう。(資料－表 3 参照)

④　19．運用能力

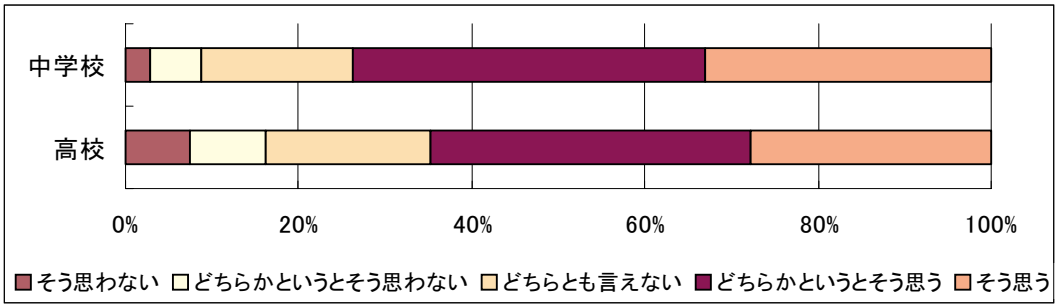


図10　直後：運用能力

中・高平均で70%近く、高校でも60%以上の教員が 4 レベル以上の段階で効果があったことを認めている。一方、 1 、 2 レベルの構成比の合計は、中学校 9 %弱、高校でも16%未満であった。しかし、この結果から直ちに、研修によって多くの教員に英語力がついたと考えるのは短絡であろう。短期間で急速に英語運用力がつくなどとは考えられないから、むしろ、多くの教員が自分の英語力を向上させる契機ととらえた、と解釈した方が妥当だろう。(資料－表 4 参照)

⑤　21．能力試験

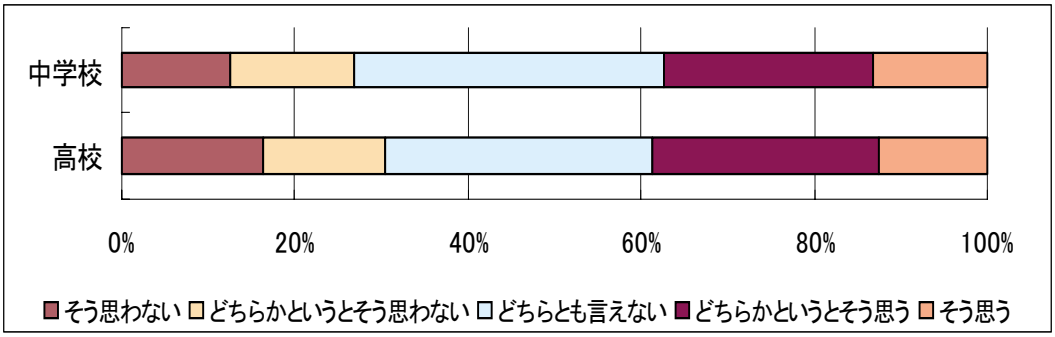


図11　直後：能力試験

「役立つ」(4 、 5 レベル) と回答した割合は、中・高とも37%程度で、高いとは言えない。「英語運用能力の向上」の項目の中では、肯定的な回答比率が 1 番低い。逆に「役に立たない」(1 、 2 レベル) は、中学校26%強、高校30%弱で、否定的な回答比率が 1 番高い。これは、全国的に見て、研修が能力試験対策に偏っていなかったことを推測させる。(資料－表 5 参照)

⑵　授業方法の工夫に関する項目

本項で扱う項目は、 4 ．聴力工夫、 5 ．読力工夫、 6 ．書力工夫、 7 ．話力工夫、 11．4技能工夫、12．コミュ活動の 6 項目で、いずれも研修後授業方法を工夫するかどうかを問うものである。

① 4．聴力工夫

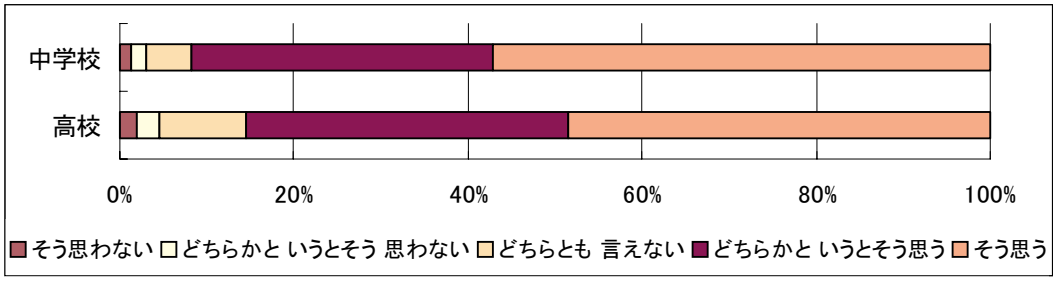


図12 直後：聴力工夫

研修直後に参加教員が感じた「聞く力」を向上させるための今後の授業方法に一層工夫を加えたいという意識は、程度の差はあっても中学校では91.5%、高校では84.6%であるから、研修直後に参加者に与えたインパクトが大きかったことが推測できる。これに比べて否定的な気持ちを頂いた教員は中学校・高校共に僅少である。（資料－表 6 参照）

② 5．読力工夫

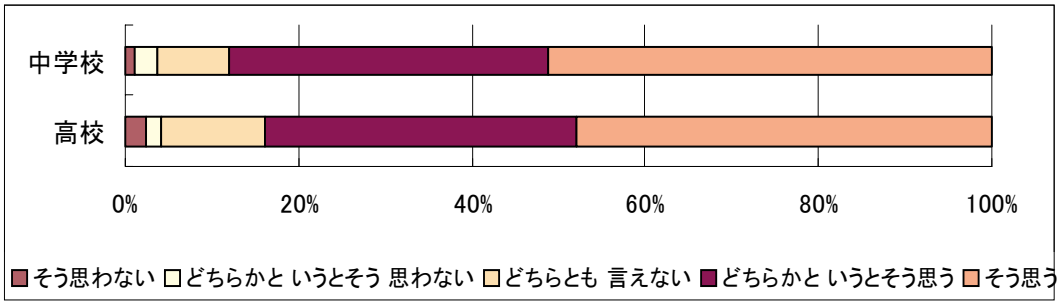


図13 直後：読力工夫

「読む力」を向上させるための今後の授業方法を一層工夫することに対して、4レベル以上の肯定的な気持ちを抱いた教員は、中学校では87.6%、高校では 83.1%であるから、大多数の教員が授業の工夫を決意した様子が窺える。これに対してどちらとも言えないと答えた教員は中学校では8.4%、高校では11.8%となっている。否定的な気持ちを抱いた教員は、中学校より高校のほうがやや多いとはいえ、授業方法の一層の工夫を決意した教員に比べて、ごく僅少である。（資料－表 7 参照）

③　6．書力工夫

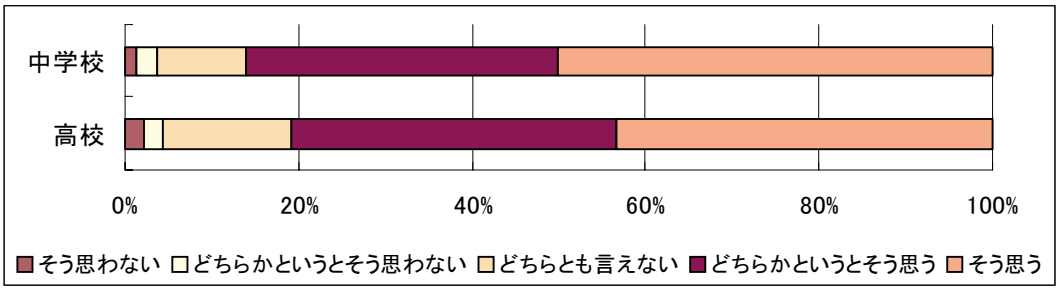


図14　直後：書力工夫

「書く力」を向上させるための今後の授業方法を一層工夫することについては、中学校では半数の教員が、高校でも約43%の教員が強く肯定（5 レベル）している。やや肯定派を加えれば、校種にかかわらず、参加者の80%以上が生徒の「書く力」を向上させるために授業に一層の工夫を加えるという決意を示している。研修が「書く力」の向上のための授業の工夫に適切なものであったか決めかねていると思われる教員は中学校では10.3%、高校では14.6%であるが、否定的意見は中学校、高校共に僅少である。（資料－表 8 参照）

④　7．話力工夫

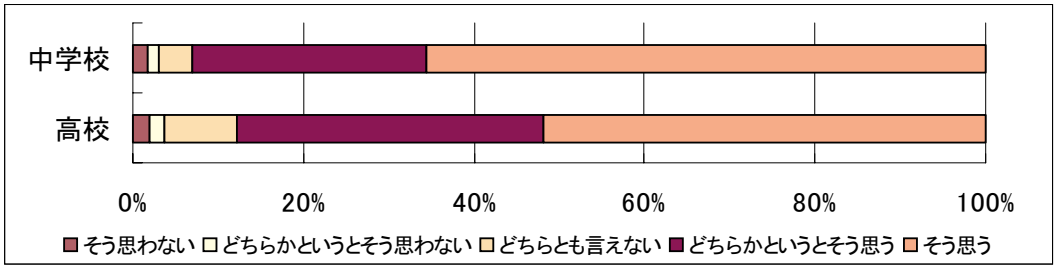


図15　直後：話力工夫

「話す力」を向上させるための今後の授業方法を一層工夫することを強く肯定した中学校の教員は65.6%に達し、高校教員は51.4%に及んでいる。 4 レベル以上の教員の数を含めると、中学校93%、高校は87%に達する。どちらとも言えないと否定派を含めると中学校では6.9%、高校では12.2%に留まっているので、研修直後には生徒に「話す力」を付けさせるための授業のさらなる工夫をするという気持ちが高まっている様子が窺える。（資料－表 9 参照）

⑤　11.4技能工夫

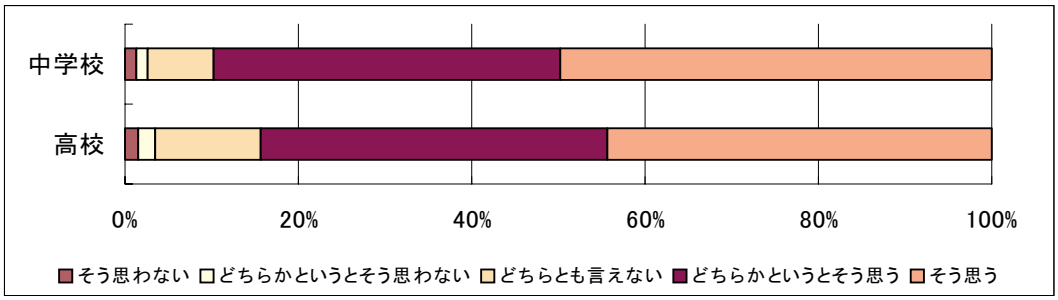


図16　直後：4技能工夫

中学校では、49.5%の教員が、高校では43.8%の教員が、4技能の関連を図った指導を行うために一層の工夫をすることに強く決意していると思われる。どちらかと言えばそうしよう（4レベル）と考える教員を合わせると中学校では、89.3%、高校では83.6%の教員が4技能を関連づけて指導することに一層工夫を加えたいと感じたことになる。これに比べて、それを決めかねていたり、否定したりした教員は中学校では10.2%、高校ではそれより若干多い15.4%になっている。（資料－表10参照）

⑥　12．コミュ活動

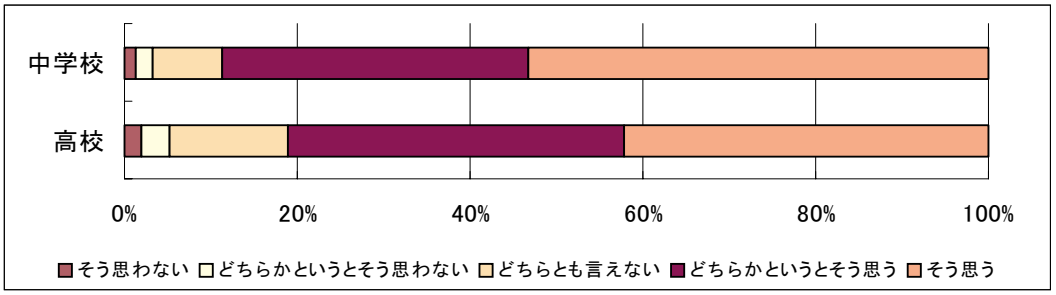


図17　直後：コミュ活動

自分の今後の授業に様々なコミュニケーション活動を増やすことを強く決意したと思われる教員は、中学校では53.1%、高校では41.8%と高い数値を示している。やや決意したと答えた教員を合わせると中学校では88.4%、高校でも80.5%に達している。研修直後に教室のコミュニケーション活動の必要性を強く意識したであろうことが窺える数値である。（資料－表11参照）

⑶　授業の反省・評価・計画・準備の工夫に関する項目

ここでは、8．評価工夫、9．授業改善、10．動機付け、14．自分アイディア、15．他人アイディア、18．ポートフォリオの6項目を扱う。いずれも授業の準備段階、あるいは、授業の終了段階に関わる事項である。

① 8．評価工夫

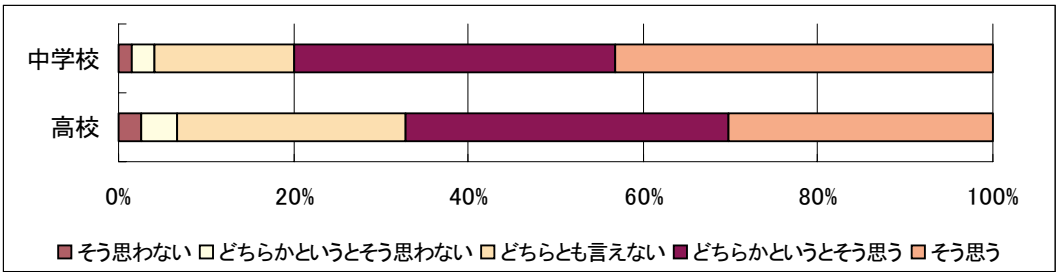


図18 直後：評価工夫

中学校教員の79%強、高校教員は66%弱が 4 レベル以上の肯定的回答である。「どちらとも言えない」と回答した教員が中学校では15.9%、高校では25.8%であることから、評価に関しては研修が全体として中学校教員により参考になるものであったことが推察できる。（資料－表12参照）

② 9．授業改善

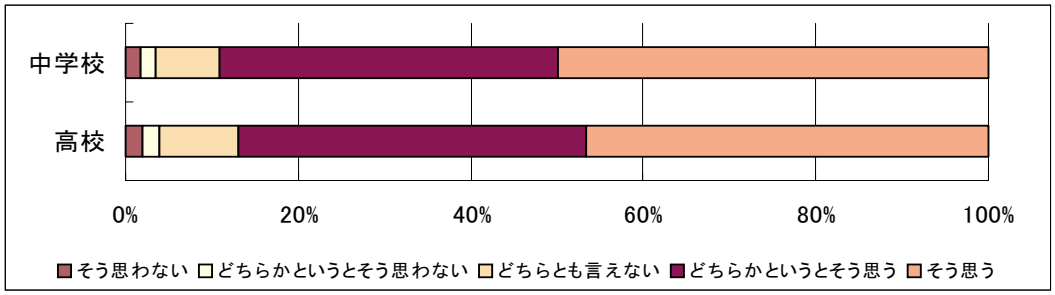


図19 直後：授業改善

中学校及び高校教員ともに同様の回答傾向を示した。どちらも、「そう思う」（中学校：49.8%、高校：46.1%）、「どちらかというとそう思う」（中学校：39.0%、高校：39.8%）という回答に集中した。集中研修直後では、参加した教員の多くが、自分の授業への反省と改善に対して前向きな態度を顕著に示していることが分かる。自分の授業を批判的な態度でとらえ、改善していくリフレクティブ・アプローチに関する研修が行われたことが推察できる。（資料－表13参照）

③　10．動機付け

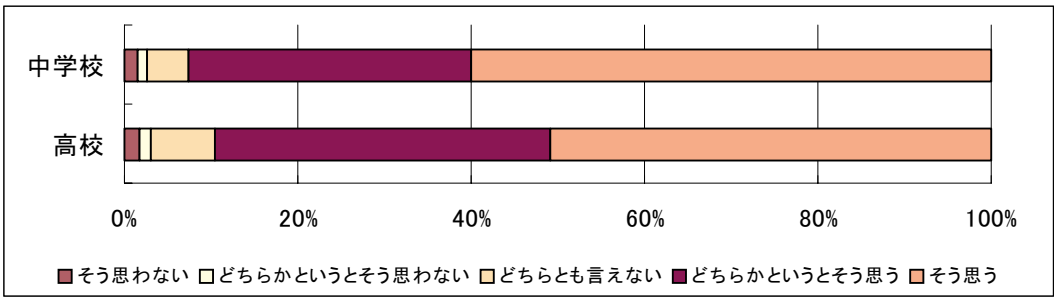


図20　直後：動機付け

中学校教員の59.9%、高校教員は50.4%が 5 レベルの「そう思う」と回答した。4 レベル以上の回答は、中学校教員92.6%、高校教員88.8%となり、集中研修直後において、多くの教員がほぼ同様に、生徒の英語学習への動機付けの方法を工夫しようという刺激を受けたことが分かる。これは、上述の「授業改善」とともに高い数値を示している。この傾向が研修後も継続するかどうかを観察する必要があると思われる。（資料－表14参照）

④　14．自分アイディア

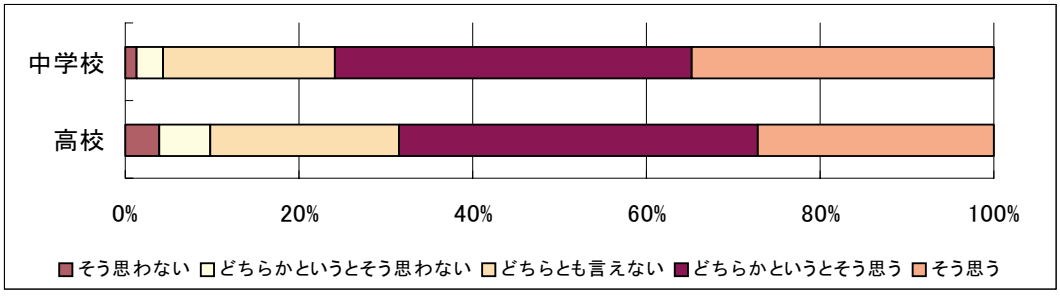


図21　直後：自分アイディア

中学校教員の75.6%、高校教員の67.8%が 4 レベル以上の回答をしている。前述の「授業改善」「動機付け」と比べ、肯定的回答が低い。これは、質問自体に能動的な要素が含まれているためだと考えられる。中には、「自分が考えている英語指導」と研修内容が同じであったと考えている教員もいたはずで、その人たちは１～３のレベルをマークしたのかもしれない。しかし、全体として肯定的回答は高い方だと言える。（資料－表15参照）

⑤　15．他人アイディア

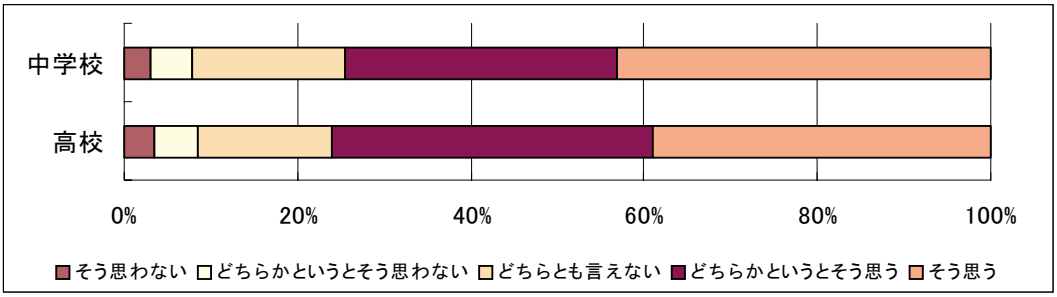


図22　直後：他人アイディア

中学校及び高校教員ともほぼ同様の回答傾向を示している。4レベル以上の回答は中学校教員74%、高校教員75.2%である。この質問内容は前述の「自分アイディア」と重なるところがある。あえて分類すれば、前者は「自己研修」の分類、これは「協同研修」の分類に入るかもしれない。今回の研修で、教員同士が話し合ったり、議論したりする機会があった地域となかった地域では、この回答に差が生じていると推測される。両者は「研修」に関わる項目で、いずれも研修に前向きな姿勢が現れていると言える。（資料－表16参照）

⑥　18．ポートフォリオ

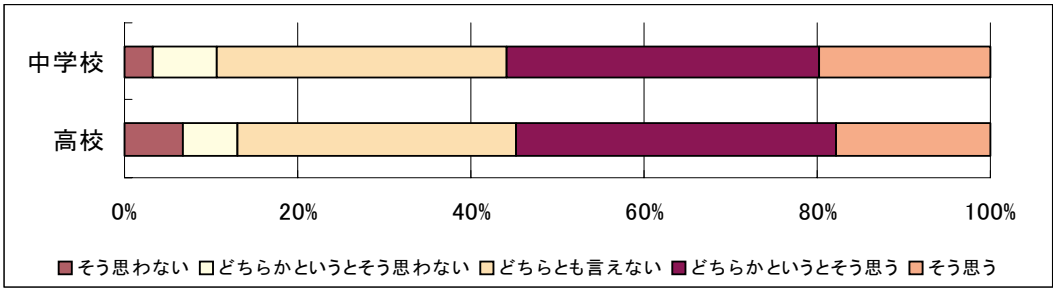


図23　直後：ポートフォリオ

他の質問と比べて否定的な回答傾向を示した。「そう思う」と回答した教員は、中学校教員が17.1%、高校教員が15.1%と低い数値を示した。4レベル以上では中学校教員が48.3%、高校教員が46.5%であった。特徴的なことは、「該当せず」という回答が、中学校教員で11.4%、高校教員で12.4%と高かったことである。この回答から、集中研修ではこの項目を扱わない地域があったと推察できる。（資料－表17参照）

⑷　専門知識や指導技術に関する項目

本項では、13．Lecture、20．知識技術の2項目をまとめる。この2項目は「英語授業に必要な知識、技術、教養」に関わるもので、研修では主に講義やワークショップの形態をとり、回答はそれを評価するものと考えられる。

① 13. Lecture

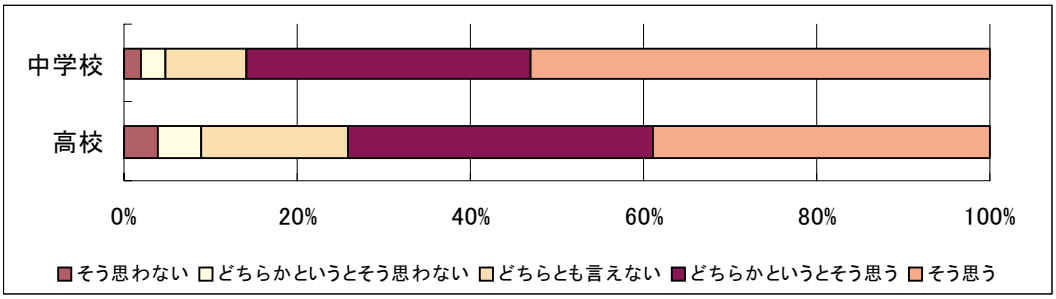


図24 直後：Lecture

4 レベル以上の回答は、中学校では80.8%、高校では62.9%と両者とも高い割合を占めている。一方、 1 、 2 レベルは、中学校では4.6%、高校では7.6%と極めて低い。講義などが一定の評価を与えられたと言える。（資料－表18参照）

② 20. 知識技術

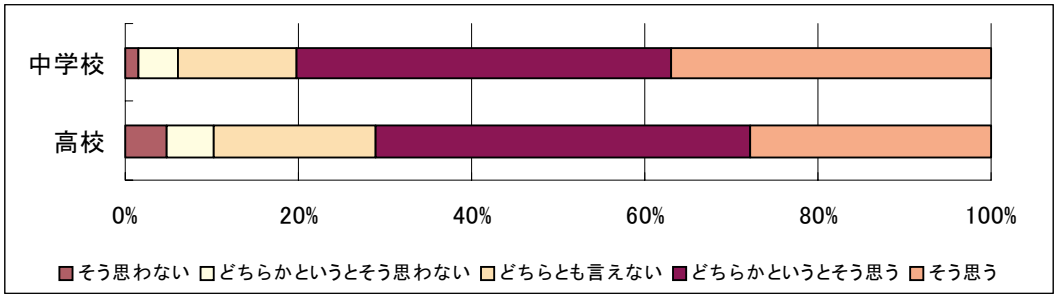


図25 直後：知識技術

4 レベル以上の回答は、中学校では80.0%、高校では70.2%と両者とも高い割合となっている。一方、 1 、 2 レベルは、中学校では6.0%、高校では10.2%と極めて低い割合にとどまっている。Special Lectures と並んで、この研修が「授業に必要な知識、技術、教養」を向上させようとする刺激を多くの教員に与えたと考えられる。（資料－表19参照）

⑸ 研修の自己評価に関する項目

研修に参加するために用意した16. My Goals、17. Self-diagnosis に関する項目である。どちらも研修の自己評価に関わるものであるが、基底では、自己研修の内容や方法につながる要素を含んでいると考えられる。

① 16. My Goals

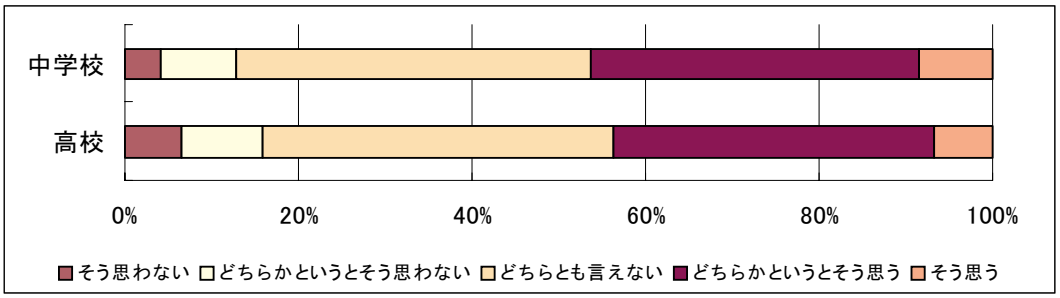


図26 直後：My Goals

4 レベル以上は、中学校では39.3%、高校では37.2%と両者がほぼ同じ割合で、高いとは言えない。特に 5 レベルは 1 桁の割合で、低い。 3 レベルは中学校、高校とも約35%である。この数値から見ると、My Own Goals の目標設定が必ずしも適切ではなかったか、あるいは、目標を設定すること自体に困難を感じたか、のどちらかの教員が多かったと推測される。（資料－表20参照）

② 17. Self-diagnosis

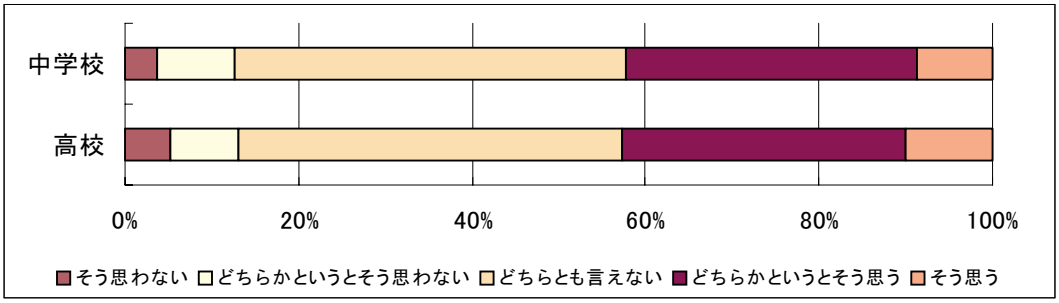


図27 直後：Self-diagnosis

4 レベル以上の回答は、中学校では32.9%、高校では32.5%とほぼ同じ割合である。 5 レベルの回答は 1 桁の割合である。 3 レベルの「どちらとも言えない」は中学校、高校とも約35%を占めている。この傾向は前述の My Goals とよく似ており、Self-diagnosis が必ずしも適切でなかったことを示している。さらに、「該当せず」は中学校17.4%、高校20.6%であることから、Self-diagnosis を設定しなかった研修が決して少なくなかったことが窺える。（資料－表21参照）

これら 2 項目の結果から、研修に対する自己評価をきちんと行うことができるようにするためには、次の点が今後の課題になると推察できる。

・研修の主催者側が、事前に、研修の目的、方法、プログラムなどの詳細を明示すること。
・受講者側が、日常的に目標を持って自己研修を行うこと。
・到達目標の事例、自己診断チェックリストなど、客観的に判断できる材料を開発すること。

3．「研修2ヵ月後」のアンケート結果

１～19の質問項目に対する回答結果を、次のように分類して分析する。さらに、「直後」の項目と関わる部分では、その都度比較対照する。

⑴ 授業外の英語使用量に関する項目
- １．英語読量
- ２．英語聴量
- ３．英語話量
- ４．英語書量
- ７．発音自信

⑵ 授業方法の変化に関する項目
- ５．授業英使
- ８．聴力授業
- ９．読力授業
- 10．書力授業
- 11．話力授業
- 15．４技能授業
- 16．コミュ授業

⑶ 授業の反省・評価・計画・準備の変化に関する項目
- ６．知技向上
- 12．評価変化
- 13．批判改善
- 14．動機付変化
- 17．ポート活用

⑷ 自己および協同研修に関する項目
- 18．自主研修
- 19．授業研究

⑴ 授業外の英語使用量に関する項目

19問の質問項目のうち、英語運用能力に関わる項目は、１．英語読量、２．英語聴量、３．英語話量、４．英語書量、７．発音自信の５問である。これらの項目は、研修後に授業外で英語の４技能の向上を目指す自己研修の量が増えたかどうかを問うものである。１～４はそれぞれ英語を「読む」「聞く」「話す」「書く」活動量、７は、発音に関するものである。これらの質問項目のねらいは、英語運用力向上に関して、研修の効果が２ヵ月後も持続しているかどうかを見ることにある。

① 1．英語読量

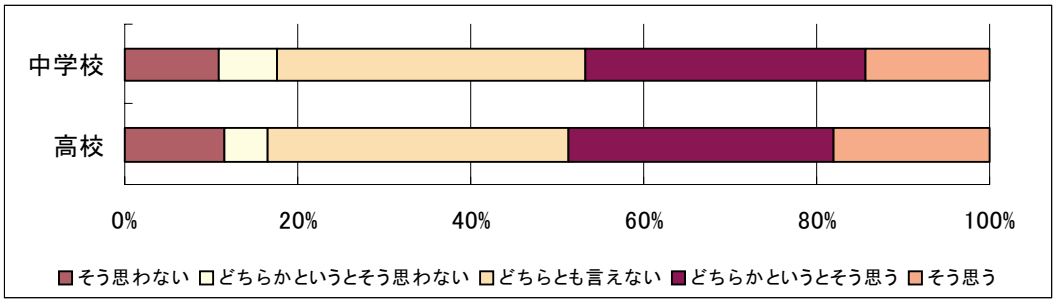


図28　2ヵ月後：英語読量

中・高とも4レベル以上の構成比は47%の前後で、2ヵ月後の数値としては低くない。5レベルの「そう思う」は中学校が14.2%、高校が17.8%である。1、2レベルを合せても、中・高とも16～17%程度である。研修を受講した半数近くの教員が、日常的に英語を読む量が増え、研修の効果が現れていることを物語っている。（資料－表22参照）

② 2．英語聴量

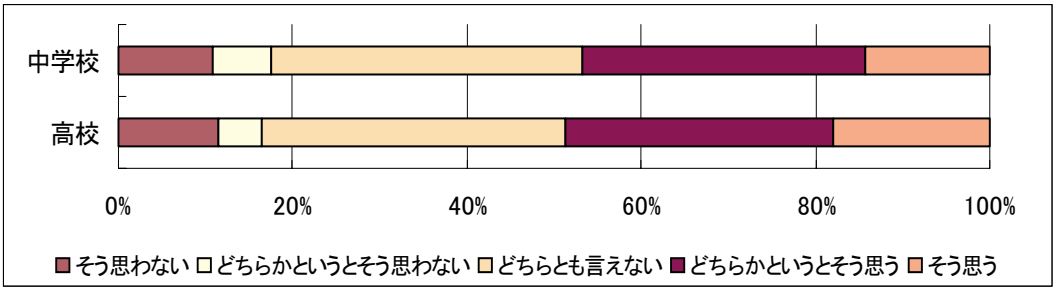


図29　2ヵ月後：英語聴量

回答者の53%程度が英語を聞く量が4レベル以上で増えたと回答している。5レベルでは、中学校16.3%、高校18.7%である。1、2レベルでも15%程度で、聞く活動に関しては、半数以上の研修受講者に効果が持続していることを示している。「読む量」および「聞く量」においては、わずかではあるが高校教員の方が量が増えている。（資料－表23参照）

③　3．英語話量

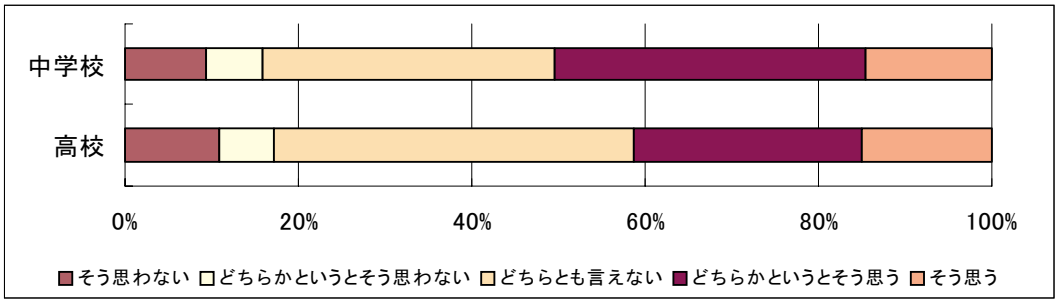


図30　2ヵ月後：英語話量

中学校では50%強、高校では40%強が4レベル以上で話す量が増えたと回答している。5レベルでは中学校14.6%、高校14.9%でそれほど差はない。1、2レベルでは15～17%である。数値的に見て、英語を日常的に話そうとする態度が、研修によってかなりの教員に育成されたと推察できる。（資料－表24参照）

④　4．英語書量

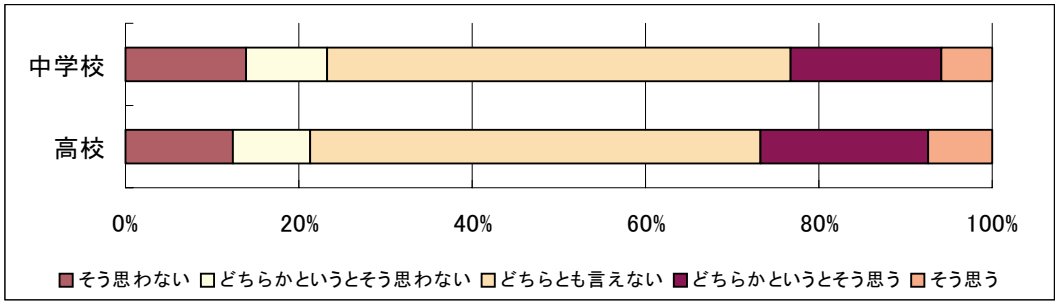


図31　2ヵ月後：英語書量

「読む」「聞く」「話す」活動に比べて、かなり数値が下回っている。4レベル以上で中学校は23%、高校では26～7%である。一方、1、2レベルではそれぞれ23%、21%強である。英語を書くための研修が、全国的に少なかったことを示しているのか、あるいは、英語を書く活動が比較的難しいことを表しているのか、この数値だけでは予断を許さない。ただし、Eメールの普及を考えれば、他の活動と比べても、英語を書く機会が少ないとは考えにくい。（資料－表24参照）

以上の4項目は、直後の質問項目「3．自分自身の英語運用能力を向上させるために、今後は自己研鑽に努めたりその方法を工夫したりする」と関わりがあると考えられる。日常的に「読む」「聞く」「話す」「書く」量が増えるということは、「自己研鑽」に努めていることになるからである。図32には中学校の場合を比較対照したものである。

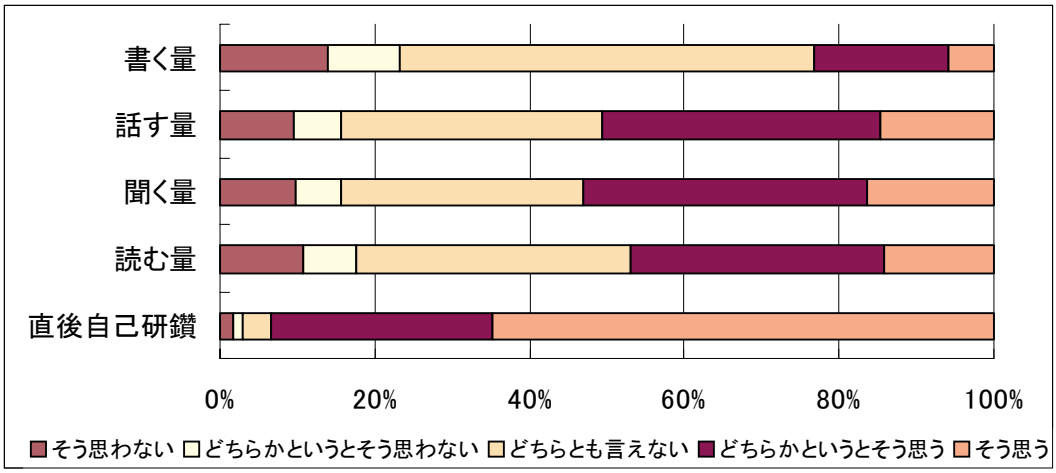


図32　中学校：直後「４．自己研鑽」と２ヵ月後の英語学習量

下段の研修直後の構成比は圧倒的に４レベル以上が占めている。研修直後の興奮が伝わってくる感じがする。２ヵ月後にはその興奮が冷めてきつつあることを物語っているのか、あるいは、４つの技能に分散したのかの判断はつかない。しかし、「書く量」を除いて他の３項目が50%近く、あるいは、それ以上の教員が４レベル以上であることは、研修によって刺激を受け、英語運用力向上のための自己研修を何らかの形で継続している教員が多いことを表している。

④　７．発音自信

図33は、「直後」の質問項目「１．自分自身の発音能力向上に役立った」と、２ヵ月後の「発音自信」を比較したものである。２ヵ月後の中学校では４レベル以上の構成比が22%程度、高校では20%弱である。それに対し、１、２レベルではそれぞれ22%、25%程度である。(資料－表25参照)

左側の１、２のレベルでは大きな差が見られないが、右側の４、５では直後と比べて中・高とも２ヵ月後の構成比が落ち込み、「どちらとも言えない」が増加している。多くの教員にとって、研修は発音の向上に役には立ったが、自信をつけるまでには至っていないことを示している。

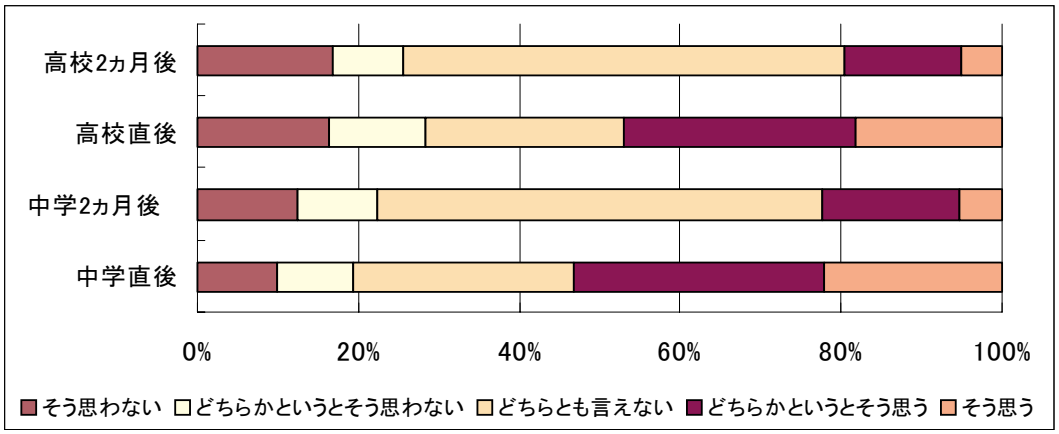


図33　2ヵ月後「発音自信」と直後「発音向上」との比較

⑵　授業方法の変化に関する項目

質問項目5．授業英使、8．聴力授業、9．読力授業、10．書力授業、11．話力授業、15．4技能授業、16．コミュ授業は「授業方法の変化」という枠組みでくくれる項目群である。8～11、15、16は「直後」の質問項目との関連が強いので、比較しながら検討する。

①　5．授業英使

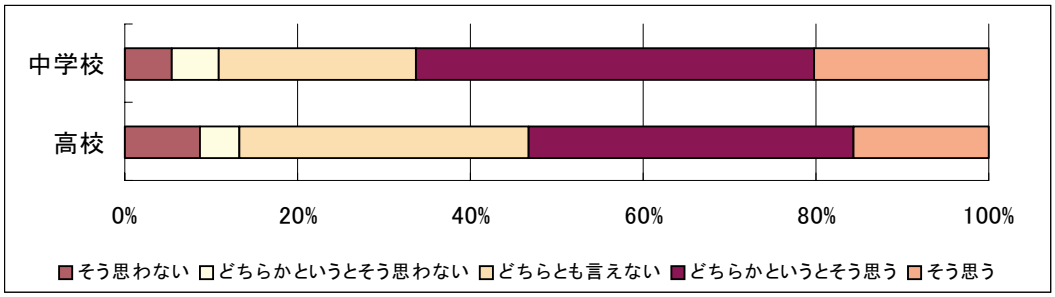


図34　2ヵ月後：授業英使

図35は「日常的に授業で英語を使う量が増えた」かどうかをたずねる質問に対する回答結果である。中学校では4レベル以上が65.8%、高校では52.8%である。そのうち、5レベルは中学校20.1%、高校15.5%である。数値的には、全体として授業での英語使用量が増加したと判断してよさそうである。また、高校よりも中学校の方が英語を使いやすい情況であるとも考えられる。どのような場面で英語を使用するようになったかは不明である。(資料－表27参照)

② 8．聴力授業

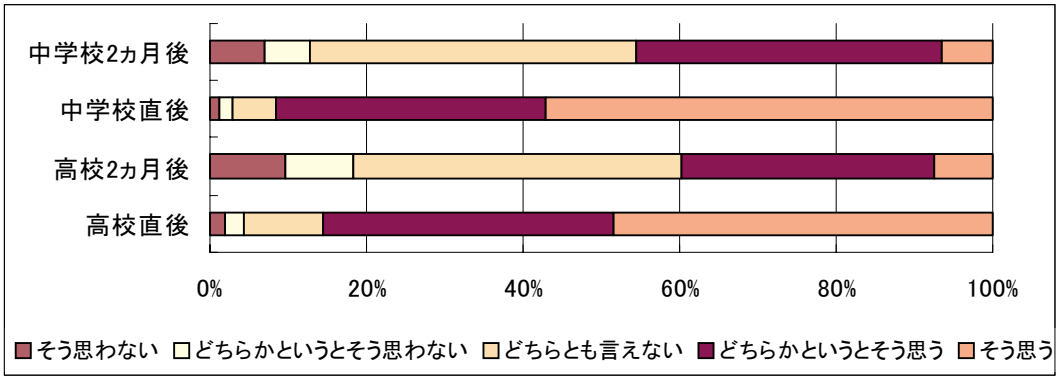


図35　2ヵ月後「聴力授業」と直後「聴力工夫」の比較

直後に「一層工夫しよう」と答えた回答と比べ、2ヵ月後での落ち込みは大きい。「聞く力」を向上させるために授業方法を2ヶ月後に変化させたのは、4レベル以上では、中学校45.3%、高校39.6%で、両方とも直後の5レベルよりも落ちている。変化したかどうかわからないという意見を持つ教員は中・高校共に40%強に及ぶ。（資料－表6、28参照）

③ 9．読力授業

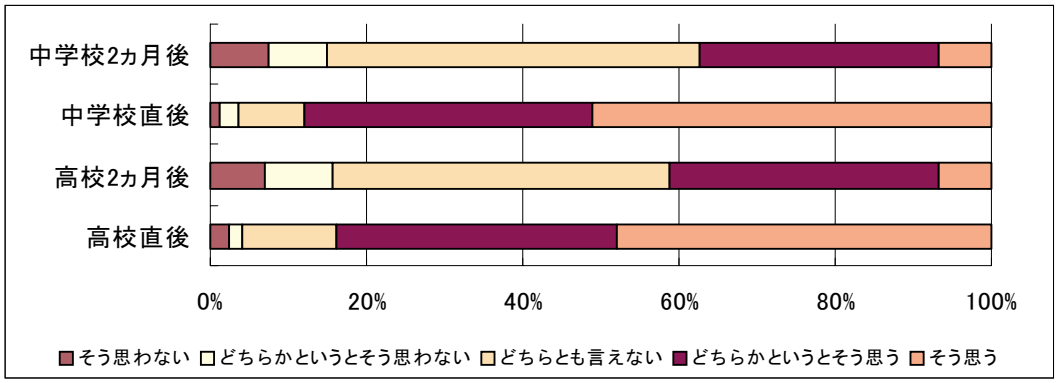


図36　2ヵ月後「読力授業」と直後「読力工夫」の比較

直後と比べ2ヵ月後はかなり落ち込んでいる。2ヵ月後に授業方法を変化させたのは、4レベル以上で中学校37.1%、高校では41.1%である。「聞く力」と比べ、中学校の「読む力」の変化が少なく、高校は若干多い。これは、「読む力」の向上に関しては高校教員のほうが中学校教員より僅かながら授業に何らかの変化を認めていることになる。（資料－表7、29参照）

④　10. 書力授業

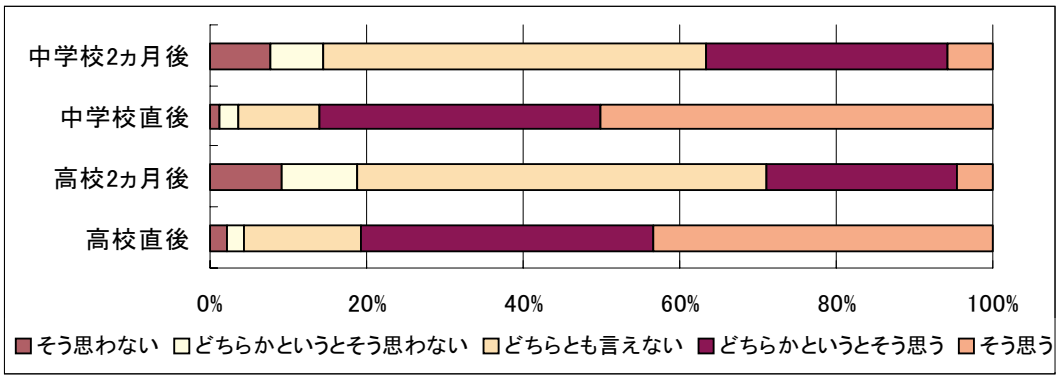


図37　2ヵ月後「書力授業」と直後「書力工夫」の比較

2ヵ月後4レベル以上で「変えた」中学校教員は36.6%、高校教員は28.7%である。3レベルは中学校48.6%に対して高校に52.0%になっている。次の「話力授業」を含め4技能の中では変化が一番少ない。「書く授業」の難しさが現れていると考えられる。(資料－表8、30参照)

⑤　11. 話力授業

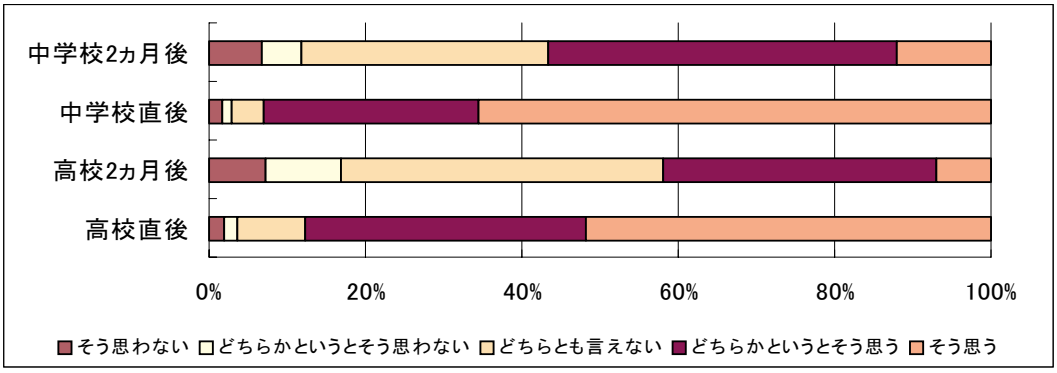


図38　2ヵ月後「話力授業」と直後「話力工夫」の比較

2ヵ月後の4レベル以上は、中学校56.4%、高校41.7%で両者の差が大きい。特に中学校ではこの授業の変化が最大である。研修直後の「話力工夫」は、「自己研鑽」「動機付け」と並んで高い値を示していたが、特に中学校の場合には、「話す力」をつけることが授業変化のポイントになっているように思われる。研修の成果が現れているものと推察できる。(資料－表9、31参照)

⑥　15．4技能授業

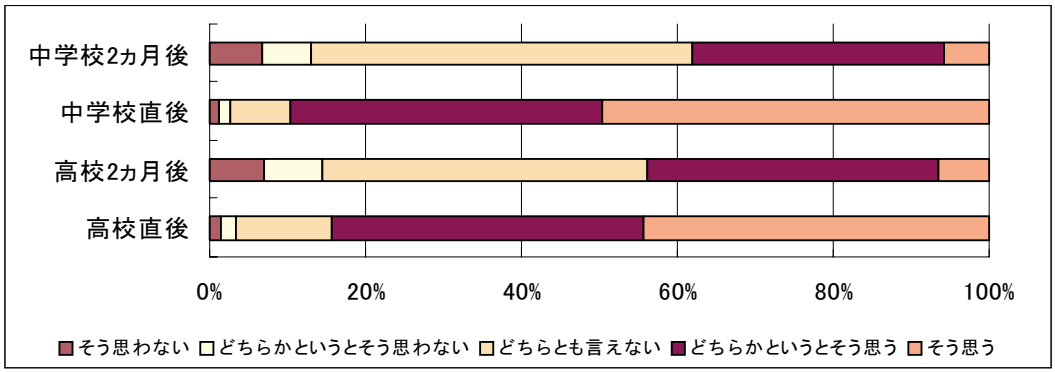


図39　2ヵ月後「4技能授業」と直後「4技能工夫」の比較

2ヵ月後、高校教員（43.6%）が中学校教員（37.9%）より肯定的に変化を認めている。直後と比べ、中・高が逆転している点が興味深い。これは「読力授業」との関連があるのかもしれない。2ヵ月後に、3レベルが中学校では48.6%、高校では41.5%に及んでいるのは、4技能指導定着の難しさを示すものであろう。（資料－表10、32参照）

⑦　16．コミュ授業

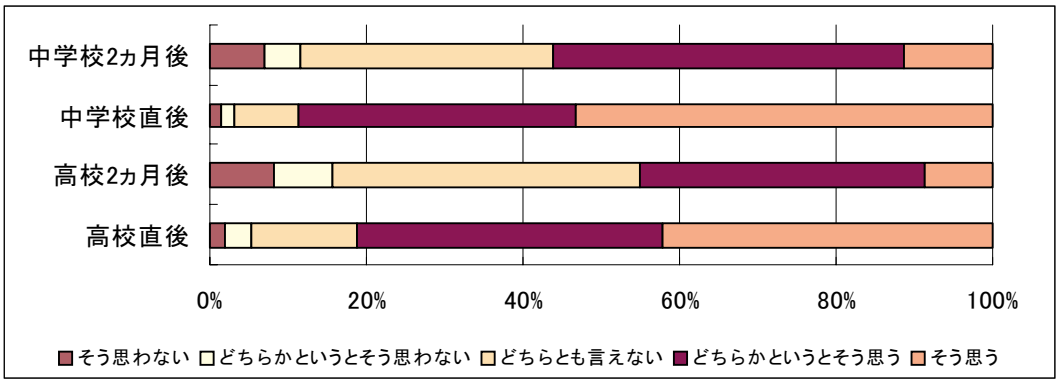


図40　2ヵ月後「コミュ授業」と直後「コミュ活動」の比較

2ヶ月後の4レベル以上の割合は、中学校では55.8%で高校は44.9%である。逆に、取り入れていないとする教員の割合は、中学校では11.4%、高校では15.7%である。この両者の数値は、「話力授業」と似た傾向を示している。3レベルの回答は、中学校でも高校でも3割以上に達しているが、個別のスキルを扱う授業法に比べるとこの数値は最も低い。（資料－表11、33参照）

⑶　授業の反省・評価・計画・準備の変化に関する項目

質問項目6．知技向上、12．評価変化、13．批判改善、14．動機付変化、17．ポート活用の5項目は主に「授業の準備・終了段階」で必要な構成要素である。それぞ

れの結果を、直後の該当する項目と比較しながら検討する。

① 6．知技向上

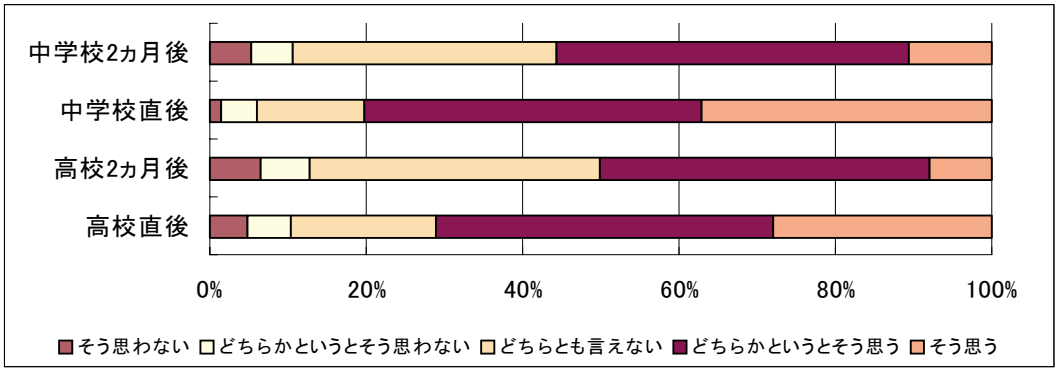


図41　2ヵ月後「知技向上」と直後「知識技術」の比較

2ヵ月後、中学校で55.6%、高校で49.9%が4レベル以上の回答をしている。教員の半数が専門知識や指導技術の向上を意識しているということになる。直後との差は20%台で、他の項目と比べ比較的差が少ない。専門知識や指導技術は保持率が高い可能性がある。（資料－表19、34参照）

② 12．評価変化

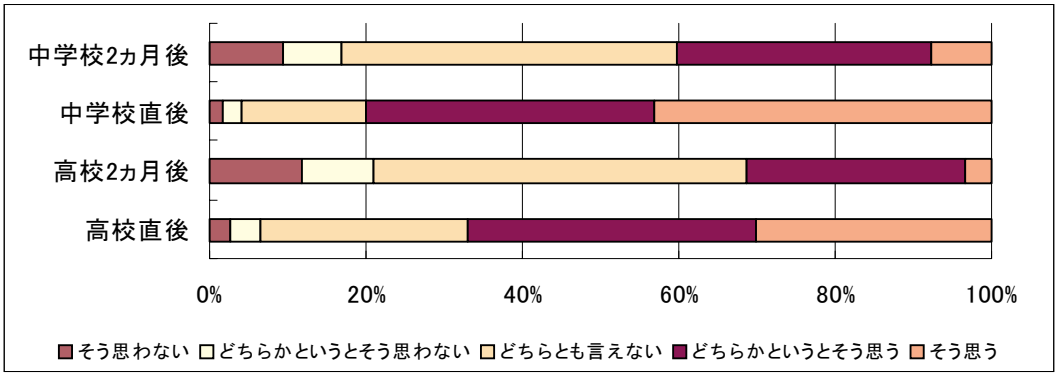


図42　2ヵ月後「評価変化」と直後「評価工夫」の比較

直後の回答と2ヶ月後の回答にかなりの落差（34～40%）がある。2ヵ月後、4レベルの回答は中学校39.8%、高校31.3%と高くはない。日常業務の中で、評価方法を変えるのは難しいということだろうか。（資料－表12、35参照）

③　13．批判改善

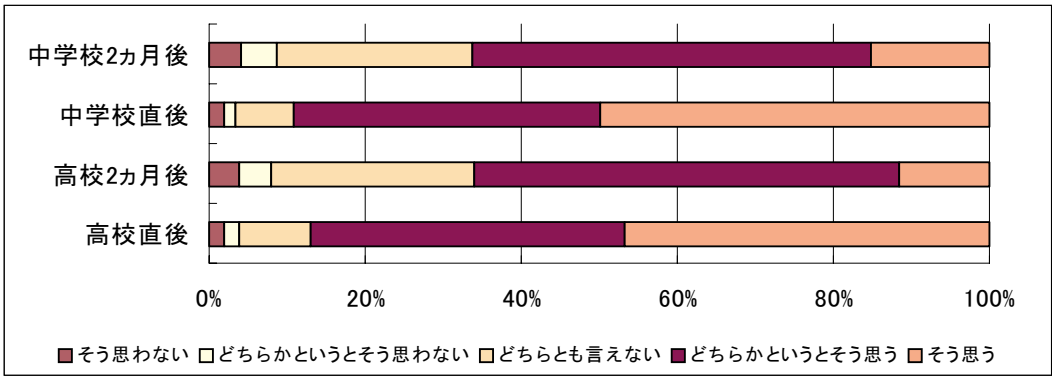


図43　2ヵ月後「批判改善」と直後「授業改善」の比較

2ヵ月後で4レベル以上の割合が中・高ともほぼ66%を維持している。直後と比べ差は20%程度であり、中・高併せ研修の効果が最も持続している項目だと考えられる。授業の終了段階における内省を本物にするには、今後5のレベルを増やしていくことが課題となろう。（資料－表13、36参照）

④　14．動機付変化

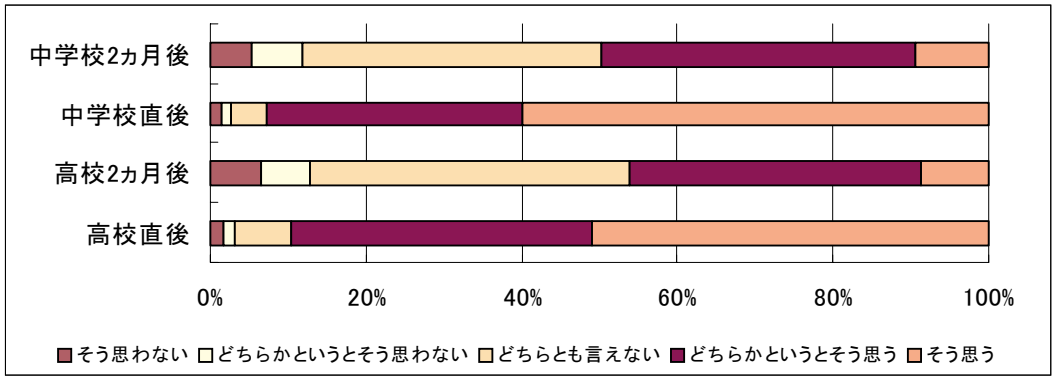


図44　2ヵ月後「動機付変化」と直後「動機付け」の比較

直後と2ヵ月後では、4レベル以上の回答構成比の落差が最も大きい項目のひとつである。直後では90%前後が「一層工夫する」ことを認めているが、2ヵ月後では45%強が「方法が変化した」にすぎない。中学校、高校とも43%程度落ち込み、「どちらとも言えない」が大増加している。教育現場・生徒の多様化による。動機付けの難しさを反映しているものと推察できる。（資料－表14、37参照）

⑤　17．ポート活用

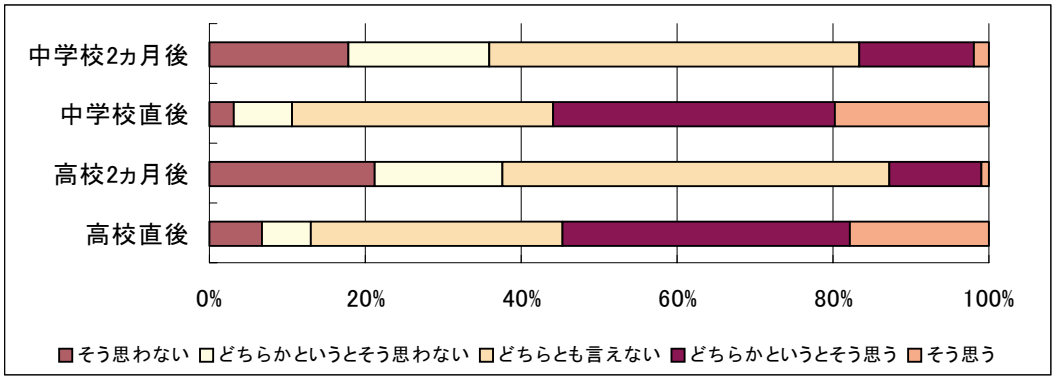


図45　2ヵ月後「ポート活用」と直後「ポートフォリオ」の比較

2ヵ月後、4レベル以上の回答は、中学校16%、高校11.9%にすぎない。19項目中最も低い構成比である。直後でも4番目に低かった。この結果から、ポートフォリオの活用は、まだ十分に理解されていないと推察できる。（資料－表17、38参照）

⑷　自己および協同研修に関する項目

質問項目18．自主研修、19．授業研究は自己研修や自校の同僚・周囲の学校教員との協同研修に関わる事項である。集中研修で触発され、研修の機会を広げたかどうかを問うものである。

①　18．自主研修

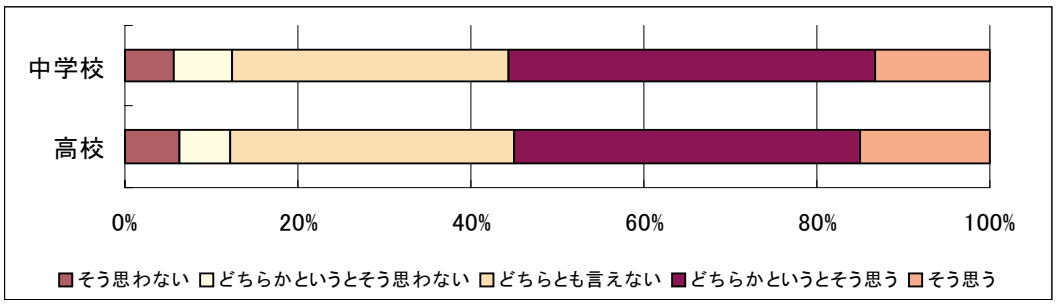


図46　2ヵ月後：自主研修

「研修受講前に比べて自主研修の目標は方法が明確になったと思う」（4レベル以上の構成比合計）は、中学校では55.3%、高校では54.5%であり、「否定派」（1、2レベルの構成比合計）は中学校では12.2%、高校では12.0%となっている。中学校、高校ともに「肯定派」が「否定派」を約4.5倍上回っている。

直後の「16．My Goals」と「17．Self-diagnosis」は、自主研修を重ねていないと十分に用意することができないと考えられる。結果はともに低い構成比（30～40%）であった。この点を考慮すると、2ヵ月後の結果は、集中研修の効果がかなり現れたと見るべきであろう。（資料－表39参照）

② 19. 授業研究

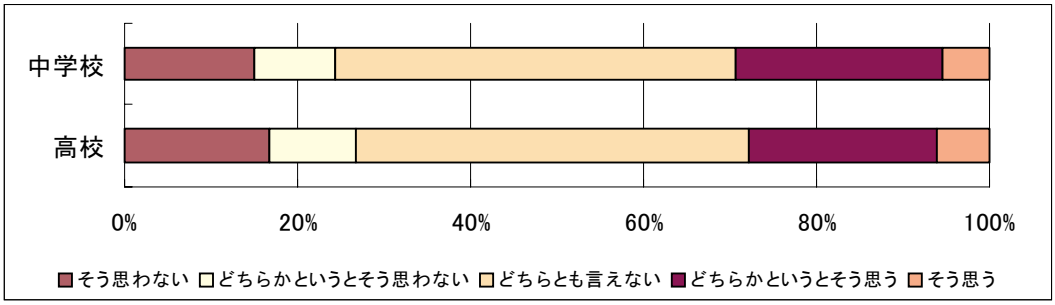


図47　2ヵ月後：授業研究

4レベル以上は、中学校では29.2%、高校では27.9%であり、2レベル以下は中学校では24.1%、高校では26.8%である。中学校、高校ともに「肯定派」が「否定派」をやや上回っているものの、「肯定派」「否定派」ともに約25～30%の範囲内である。この結果から見る限り、地域の学校間のみならず、同じ学校での校内研修も十分とは言えない情況だと推察する。前項の結果では、自主研修の目標や方法が明確になってきているようなので、今後は、校内研修をどう進めるか、あるいは、地域の学校間での研修の進め方、なども検討する必要があると思われる。（資料－表40参照）

Ⅴ　資料―アンケート（多肢選択）集計結果―

Ａ．研修直後

１．自分自身の発音能力の向上に役立った

資料ー表１　１．発音向上

	発音向上							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	11	110	106	305	349	246	2	1,129
構成比	1.0%	9.7%	9.4%	27.0%	30.9%	21.8%	0.2%	100%
高校	35	169	124	255	298	189	10	1,080
構成比	3.2%	15.6%	11.5%	23.6%	27.6%	17.5%	0.9%	100%
その他		2	4	9	9	12		36
無回答	2	8	3	10	10	11	3	47
合計	48	289	237	579	666	458	15	2,292
構成比	2.1%	12.6%	10.3%	25.3%	29.1%	20.0%	0.7%	100%

２．自分自身の語彙力や文法力の向上に役立った

資料ー表２　２．自分語彙

	自分語彙							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	5	48	68	218	475	314	1	1,129
構成比	0.4%	4.3%	6.0%	19.3%	42.1%	27.8%	0.1%	100%
高校	33	101	122	276	366	172	10	1,080
構成比	3.1%	9.4%	11.3%	25.6%	33.9%	15.9%	0.9%	100%
その他			5	9	12	10		36
無回答		10	5	13	10	8	1	47
合計	38	159	200	516	863	504	12	2,292
構成比	1.7%	6.9%	8.7%	22.5%	37.7%	22.0%	0.5%	100%

3．自分自身の英語運用能力を向上させるために、今後は自己研鑽に努めたりその方法を工夫したりする

資料ー表３　３．自己研鑽

	自		己		研		鑽	合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	2	18	16	40	323	728	2	1,129
構成比	0.2%	1.6%	1.4%	3.5%	28.6%	64.5%	0.2%	100%
高校	24	25	14	50	296	666	5	1,080
構成比	2.2%	2.3%	1.3%	4.6%	27.4%	61.7%	0.5%	100%
その他		1	1	1	11	22		36
無回答		3		3	15	25	1	47
合計	26	47	31	94	645	1,441	8	2,292
構成比	1.1%	2.1%	1.4%	4.1%	28.1%	62.9%	0.3%	100%

4．生徒の「聞く力」を向上させるために、今後は授業方法を一層工夫する

資料ー表４　19．運用能力

	運		用		能		力	合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	2	33	67	197	457	371	2	1,129
構成比	0.2%	2.9%	5.9%	17.4%	40.5%	32.9%	0.2%	100%
高校	26	77	93	198	388	290	8	1,080
構成比	2.4%	7.1%	8.6%	18.3%	35.9%	26.9%	0.7%	100%
その他			3	11	13	9		36
無回答		7	4	5	17	13	1	47
合計	28	117	167	411	875	683	11	2,292
構成比	1.2%	5.1%	7.3%	17.9%	38.2%	29.8%	0.5%	100%

21．今回の研修は、英語能力試験（英検、TOEFL，TOEIC 等）の受験に役立つと思う

資料ー表５　21．能力試験

	能		力		試	験		合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	14	139	160	398	269	146	3	1,129
構成比	1.2%	12.3%	14.2%	35.3%	23.8%	12.9%	0.3%	100%
高校	39	170	145	317	271	128	10	1080
構成比	3.6%	15.7%	13.4%	29.4%	25.1%	11.9%	0.9%	100%
その他	1	4	3	17	9	2		36
無回答		5	8	14	10	8	2	47
合計	54	318	316	746	559	284	15	2,292
構成比	2.4%	13.9%	13.8%	32.5%	24.4%	12.4%	0.7%	100%

４．生徒の「聞く力」を向上させるために、今後は授業方法を一層工夫する

資料ー表６　４．聴力工夫

	聴		力		工	夫		合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	2	13	20	60	388	645	1	1,129
構成比	0.2%	1.2%	1.8%	5.3%	34.4%	57.1%	0.1%	100%
高校	5	22	26	108	396	517	6	1,080
構成比	0.5%	2.0%	2.4%	10.0%	36.7%	47.9%	0.6%	100%
その他	1		1	4	15	15		36
無回答		2	3	7	13	20	2	47
合計	8	37	50	179	812	1197	9	2,292
構成比	0.3%	1.6%	2.2%	7.8%	35.4%	52.2%	0.4%	100%

5．生徒の「読む力」を向上させるために、今後は授業方法を一層工夫する

資料ー表７　読力工夫

	読		力		工		夫	合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	4	12	28	95	414	575	1	1,129
構成比	0.4%	1.1%	2.5%	8.4%	36.7%	50.9%	0.1%	100%
高校	6	25	19	127	385	513	5	1,080
構成比	0.6%	2.3%	1.8%	11.8%	35.6%	47.5%	0.5%	100%
その他	2		1	7	12	14		36
無回答		5		8	11	22	1	47
合計	12	42	48	237	822	1,124	7	2,292
構成比	0.5%	1.8%	2.1%	10.3%	35.9%	49.0%	0.3%	100%

6．生徒の「書く力」を向上させるために、今後は授業方法を一層工夫する

資料ー表８　書力工夫

	書		力		工		夫	合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	1	14	28	116	404	565	1	1,129
構成比	0.1%	1.2%	2.5%	10.3%	35.8%	50.0%	0.1%	100%
高校	7	23	25	158	398	463	6	1,080
構成比	0.6%	2.1%	2.3%	14.6%	36.9%	42.9%	0.6%	100%
その他	2		2	7	11	14		36
無回答		4		9	14	19	1	47
合計	10	41	55	290	827	1,061	8	2,292
構成比	0.4%	1.8%	2.4%	12.7%	36.1%	46.3%	0.3%	100%

7．生徒の「話す力」を向上させるために、今後は授業方法を一層工夫する

資料ー表９　話力工夫

	話　力　工　夫							合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	1	20	14	44	310	739	1	1,129
構成比	0.1%	1.8%	1.2%	3.9%	27.5%	65.5%	0.1%	100%
高校	4	21	19	92	384	555	5	1,080
構成比	0.4%	1.9%	1.8%	8.5%	35.6%	51.4%	0.5%	100%
その他	1	1		2	15	17		36
無回答		2	1	8	15	20	1	47
合計	6	44	34	146	724	1,331	7	2,292
構成比	0.3%	1.9%	1.5%	6.4%	31.6%	58.1%	0.3%	100%

11．４技能の関連を図った指導について、今後は一層工夫する

資料ー表10　４技能工夫

	4　技　能　工　夫							合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	4	15	15	86	449	559	1	1,129
構成比	0.4%	1.3%	1.3%	7.6%	39.8%	49.5%	0.1%	100%
高校	8	16	20	130	430	473	3	1,080
構成比	0.7%	1.5%	1.9%	12.0%	39.8%	43.8%	0.3%	100%
その他	2		1	3	16	14		36
無回答		1	1	5	22	17	1	47
合計	14	32	37	224	917	1063	5	2,292
構成比	0.6%	1.4%	1.6%	9.8%	40.0%	46.4%	0.2%	100%

12. 自分の今後の授業に様々なコミュニケーション活動を増やす

資料ー表11　コミュ活動

	コ　ミ　ュ　活　動							合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	1	16	20	90	399	600	3	1,129
構成比	0.1%	1.4%	1.8%	8.0%	35.3%	53.1%	0.3%	100%
高校	4	21	36	146	418	451	4	1,080
構成比	0.4%	1.9%	3.3%	13.5%	38.7%	41.8%	0.4%	100%
その他	1	1		5	14	15		36
無回答		2		7	20	17	1	47
合計	6	40	56	248	851	1083	8	2,292
構成比	0.3%	1.7%	2.4%	10.8%	37.1%	47.3%	0.3%	100%

8．生徒に対する評価の方法を今後は一層工夫する

資料ー表12　評価工夫

	評　価　工　夫							合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	7	18	27	179	411	482	5	1,129
構成比	0.6%	1.6%	2.4%	15.9%	36.4%	42.7%	0.4%	100%
高校	15	28	42	279	392	320	4	1,080
構成比	1.4%	2.6%	3.9%	25.8%	36.3%	29.6%	0.4%	100%
その他	1	1	2	9	11	12		36
無回答		4	1	14	15	12	1	47
合計	23	51	72	481	829	826	10	2,292
構成比	1.0%	2.2%	3.1%	21.0%	36.2%	36.0%	0.4%	100%

9．自分が行っている授業を批判的な態度で反省しながら、今後は絶えず改善していく

資料ー表13　授業改善

	授業改善							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	3	20	18	84	440	562	2	1,129
構成比	0.3%	1.8%	1.6%	7.4%	39.0%	49.8%	0.2%	100%
高校	9	22	20	97	430	498	4	1,080
構成比	0.8%	2.0%	1.9%	9.0%	39.8%	46.1%	0.4%	100%
その他	1			2	19	14		36
無回答		2	1	6	17	20	1	47
合計	13	44	39	189	906	1,094	7	2,292
構成比	0.6%	1.9%	1.7%	8.2%	39.5%	47.7%	0.3%	100%

10．生徒の動機付けの方法を今後は一層工夫する

資料ー表14　動機付け

	動機付け							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	1	17	13	52	369	676	1	1,129
構成比	0.1%	1.5%	1.2%	4.6%	32.7%	59.9%	0.1%	100%
高校	7	18	15	78	415	544	3	1,080
構成比	0.6%	1.7%	1.4%	7.2%	38.4%	50.4%	0.3%	100%
その他	1		1		16	18		36
無回答		3		4	16	23	1	47
合計	9	38	29	134	816	1,261	5	2,292
構成比	0.4%	1.7%	1.3%	5.8%	35.6%	55.0%	0.2%	100%

14. 自分が考えている英語指導のアイディアを発展させることができた

資料ー表15　自分アイディア

	自分アイディア							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	3	15	35	221	463	391	1	1,129
構成比	0.3%	1.3%	3.1%	19.6%	41.0%	34.6%	0.1%	100%
高校	6	42	64	232	442	290	4	1,080
構成比	0.6%	3.9%	5.9%	21.5%	40.9%	26.9%	0.4%	100%
その他	2		4	9	17	4		36
無回答		4	3	7	15	16	2	47
合計	11	61	106	469	937	701	7	2,292
構成比	0.5%	2.7%	4.6%	20.5%	40.9%	30.6%	0.3%	100%

15. 研修に参加した他の先生の英語指導についてのアイディアが参考になった

資料ー表16　他人アイディア

	他人アイディア							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	4	35	52	200	351	484	3	1,129
構成比	0.4%	3.1%	4.6%	17.7%	31.1%	42.9%	0.3%	100%
高校	8	37	54	166	395	417	3	1,080
構成比	0.7%	3.4%	5.0%	15.4%	36.6%	38.6%	0.3%	100%
その他	2	1	4	6	13	10		36
無回答		3	4	6	11	21	2	47
合計	14	76	114	378	770	932	8	2,292
構成比	0.6%	3.3%	5.0%	16.5%	33.6%	40.7%	0.3%	100%

18. ポートフォリオを今後有効に活用する

資料ー表17　ポートフォリオ

	ポートフォリオ							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	129	32	71	326	352	193	26	1,129
構成比	11.4%	2.8%	6.3%	28.9%	31.2%	17.1%	2.3%	100%
高校	134	63	57	296	339	163	28	1,080
構成比	12.4%	5.8%	5.3%	27.4%	31.4%	15.1%	2.6%	100%
その他	4			14	9	6	3	36
無回答	1	2	5	19	9	10	1	47
合計	268	97	133	655	709	372	58	2,292
構成比	11.7%	4.2%	5.8%	28.6%	30.9%	16.2%	2.5%	100%

13. Special Lectures を聞いて参考になった

資料ー表18　Lecture

	Lecture							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	56	21	30	99	348	565	10	1,129
構成比	5.0%	1.9%	2.7%	8.8%	30.8%	50.0%	0.9%	100%
高校	134	37	45	156	323	356	29	1,080
構成比	12.4%	3.4%	4.2%	14.4%	29.9%	33.0%	2.7%	100%
その他	6	2	3	3	9	11	2	36
無回答	1	4	1	9	7	22	3	47
合計	197	64	79	267	687	954	44	2,292
構成比	8.6%	2.8%	3.5%	11.6%	30.0%	41.6%	1.9%	100%

20．今回の研修は、英語指導に必要な「専門知識や指導技術」の向上に効果があった

資料ー表19　知識技術

	知識技術							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	1	17	51	154	487	417	2	1,129
構成比	0.1%	1.5%	4.5%	13.6%	43.1%	36.9%	0.2%	100%
高校	8	51	59	199	461	297	5	1,080
構成比	0.7%	4.7%	5.5%	18.4%	42.7%	27.5%	0.5%	100%
その他		1	2	10	13	10		36
無回答		5	1	7	20	12	2	47
合計	9	74	113	370	981	736	9	2,292
構成比	0.4%	3.2%	4.9%	16.1%	42.8%	32.1%	0.4%	100%

16．研修に参加するために用意したMy Own Goals（自己到達目標）を達成することができた

資料ー表20　My Goals

	My Goals							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	149	40	83	391	364	80	22	1,129
構成比	13.2%	3.5%	7.4%	34.6%	32.2%	7.1%	1.9%	100%
高校	143	59	86	370	339	63	20	1,080
構成比		5.5%	8.0%	34.3%	31.4%	5.8%	1.9%	100%
その他	6	2	1	13	12	1	1	36
無回答		4	7	13	17	4	2	47
合計	298	105	177	787	732	148	45	2,292
構成比	12.6%	4.6%	7.7%	34.3%	31.9%	6.5%	1.7%	100%

17．研修に参加するために用意したSelf-diagnosis（自己診断）は適切であった

資料ー表21　Self-diagnosis

	Self-diagnosis							合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	197	33	79	395	296	76	53	1,129
構成比	17.4%	2.9%	7.0%	35.0%	26.2%	6.7%	4.7%	100%
高校	222	43	64	364	269	82	36	1,080
構成比	20.6%	4.0%	5.9%	33.7%	24.9%	7.6%	3.3%	100%
その他	8	2	1	15	7	1	2	36
無回答	2	2	1	15	22	4	1	47
合計	429	80	145	789	594	163	92	2,292
構成比	18.7%	3.5%	6.3%	34.4%	25.9%	7.1%	4.0%	100%

B．研修2ヵ月後

1．研修受講前と比べて自分自身の日常的に英語を読む量や機会が増えた

資料ー表22　英語読量

	英　語　読　量							合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	1	58	37	191	175	77	2	541
構成比	0.2%	10.7%	6.8%	35.3%	32.3%	14.2%	0.4%	100%
高校	4	54	24	164	145	85	1	477
構成比	0.8%	11.3%	5.0%	34.4%	30.4%	17.8%	0.2%	100%
その他		4	2	2	6	3		17
無回答		7	2	19	12	7		47
合計	5	123	65	376	338	172	3	1,082
構成比	0.5%	11.4%	6.0%	34.8%	31.2%	15.9%	0.3%	100%

2．研修受講前と比べて自分自身の日常的に英語を聞く量や機会が増えた

資料ー表23　英語聴量

	英語聴量						合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	
中学校		53	32	169	199	88	541
構成比		9.8%	5.9%	31.2%	36.8%	16.3%	100%
高校	3	47	23	150	165	89	477
構成比	0.6%	9.9%	4.8%	31.4%	34.6%	18.7%	100%
その他		3	1	6	3	4	17
無回答		5	3	18	14	7	47
合計	3	108	59	343	381	188	1,082
構成比	0.3%	10.0%	5.5%	31.7%	35.2%	17.4%	100%

3．研修受講前と比べて自分自身の日常的に英語を話す量や機会が増えた

資料ー表24　　英語話量

	英語話量							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校		51	34	182	193	79	2	541
構成比		9.4%	6.3%	33.6%	35.7%	14.6%	0.4%	100%
高校	3	51	30	197	125	71		477
構成比	0.6%	10.7%	6.3%	41.3%	26.2%	14.9%		100%
その他		4	1	5	4	3		17
無回答		6	4	17	16	4		47
合計	3	112	69	401	338	157	2	1,082
構成比	0.3%	10.4%	6.4%	37.1%	31.2%	14.5%	0.2%	100%

4．研修受講前と比べて自分自身の日常的に英語を書く量や機会が増えた

資料－表25　英語書量

	英語書量							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	1	75	49	288	93	32	3	541
構成比	0.2%	13.9%	9.1%	53.2%	17.2%	5.9%	0.6%	100%
高校	3	59	42	245	92	35	1	477
構成比	0.6%	12.4%	8.8%	51.4%	19.3%	7.3%	0.2%	100%
その他		4	1	6	3	3		17
無回答		5	5	23	10	4		47
合計	4	143	97	562	198	74	4	1,082
構成比	0.4%	13.2%	9.0%	51.9%	18.3%	6.8%	0.4%	100%

7．研修受講前と比べて自分自身の英語の発音に自信が持てるようになった

資料－表26　発音自信

	発音自信							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	4	67	53	297	92	28		541
構成比	0.7%	12.4%	9.8%	54.9%	17.0%	5.2%		100%
高校	8	79	41	256	68	24	1	477
構成比	1.7%	16.6%	8.6%	53.7%	14.3%	5.0%	0.2%	100%
その他		3	3	8		3		17
無回答	1	7	4	24	8	3		47
合計	13	156	101	585	168	58	1	1,082
構成比	1.2%	14.4%	9.3%	54.1%	15.5%	5.4%	0.1%	100%

5．研修受講前と比べて自分自身の日常的に授業で英語を使う量や機会が増えた

資料ー表27　授業英使

	授	業		英		使		合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	3	30	29	122	247	109	1	541
構成比	0.6%	5.5%	5.4%	22.6%	45.7%	20.1%	0.2%	100%
高校	3	41	22	159	178	74		477
構成比	0.6%	8.6%	4.6%	33.3%	37.3%	15.5%		100%
その他	2	3		4	5	3		17
無回答		4	2	14	20	7		47
合計	8	78	53	299	450	193	1	1,082
構成比	0.7%	7.2%	4.9%	27.6%	41.6%	17.8%	0.1%	100%

8．生徒の「聞く力」を向上させるための授業方法が研修受講前と比べて変化した

資料ー表28　聴力授業

	聴	力		授		業		合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	2	38	31	225	210	35		541
構成比	0.4%	7.0%	5.7%	41.6%	38.8%	6.5%		100%
高校	2	46	41	199	153	36		477
構成比	0.4%	9.6%	8.6%	41.7%	32.1%	7.5%		100%
その他	3			5	9			17
無回答		4	8	18	13	4		47
合計	7	88	80	447	385	75		1,082
構成比	0.6%	8.1%	7.4%	41.3%	35.6%	6.9%		100%

9．生徒の「読む力」を向上させるための授業方法が研修受講前と比べて変化した

資料ー表29　読力授業

	読	力		授	業		合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	2	40	40	258	164	37		541
構成比	0.4%	7.4%	7.4%	47.7%	30.3%	6.8%		100%
高校	2	33	42	204	164	32		477
構成比	0.4%	6.9%	8.8%	42.8%	34.4%	6.7%		100%
その他	3		1	8	5			17
無回答		5	4	20	14	4		47
合計	7	78	87	490	347	73		1,082
構成比	0.6%	7.2%	8.0%	45.3%	32.1%	6.7%		100%

10．生徒の「書く力」を向上させるための授業方法が研修受講前と比べて変化した

資料ー表30　書力授業

	書	力		授	業		合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	2	42	36	263	167	31		541
構成比	0.4%	7.8%	6.7%	48.6%	30.9%	5.7%		100%
高校	3	44	45	248	115	22		477
構成比	0.6%	9.2%	9.4%	52.0%	24.1%	4.6%		100%
その他	3	1	1	8	3	1		17
無回答		4	5	23	14	1		47
合計	8	91	87	542	299	55		1,082
構成比	0.7%	8.4%	8.0%	50.1%	27.6%	5.1%		100%

11. 生徒の「話す力」を向上させるための授業方法が研修受講前と比べて変化した

資料ー表31　話力授業

	話　力　授　業							合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	2	37	27	170	240	65		541
構成比	0.4%	6.8%	5.0%	31.4%	44.4%	12.0%	0.0%	100%
高校	2	34	46	195	166	33	1	477
構成比	0.4%	7.1%	9.6%	40.9%	34.8%	6.9%	0.2%	100%
その他	3		1	5	8			17
無回答		4	5	20	16	2		47
合計	7	75	79	390	430	100	1	1,082
構成比	0.6%	6.9%	7.3%	36.0%	39.7%	9.2%	0.1%	100%

15. 4技能の関連を図った指導の方法が研修受講前と比べて変化した

資料ー表32　4技能授業

	4　技　能　授　業							合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	2	37	33	263	174	31	1	541
構成比	0.4%	6.8%	6.1%	48.6%	32.2%	5.7%	0.2%	100%
高校	2	33	36	198	177	31		477
構成比	0.4%	6.9%	7.5%	41.5%	37.1%	6.5%	0.0%	100%
その他	3			8	6			17
無回答		4	2	28	12	1		47
合計	7	74	71	497	369	63	1	1,082
構成比	0.6%	6.8%	6.6%	45.9%	34.1%	5.8%	0.1%	100%

16. 研修受講前と比べてコミュニケーション活動を自分の授業に多く取り入れている

資料ー表33　コミュ授業

	コ　ミ　ュ　授　業							合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	2	38	24	175	241	61		541
構成比	0.4%	7.0%	4.4%	32.3%	44.5%	11.3%	0.0%	100%
高校	1	39	36	186	173	41	1	477
構成比	0.2%	8.2%	7.5%	39.0%	36.3%	8.6%	0.2%	100%
その他	2			4	9	2		17
無回答		3	3	15	21	5		47
合計	5	80	63	380	444	109	1	1,082
構成比	0.5%	7.4%	5.8%	35.1%	41.0%	10.1%	0.1%	100%

6．研修受講前と比べて英語指導に必要な専門知識や指導技術が向上した

資料ー表34　知技向上

	知　技　向　上							合　計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	1	29	28	181	244	57	1	541
構成比	0.2%	5.4%	5.2%	33.5%	45.1%	10.5%	0.2%	100%
高校	2	31	29	176	201	37	1	477
構成比	0.4%	6.5%	6.1%	36.9%	42.1%	7.8%	0.2%	100%
その他	1		1	5	9	1		17
無回答		5	3	23	14	2		47
合計	4	65	61	385	468	97	2	1,082
構成比	0.4%	6.0%	5.6%	35.6%	43.3%	9.0%	0.2%	100%

12. 研修受講前と比べて生徒に対する評価方法が変化した

資料ー表35　評価変化

	評価変化							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	3	51	39	230	174	41	3	541
構成比	0.6%	9.4%	7.2%	42.5%	32.2%	7.6%	0.6%	100%
高校	1	56	44	227	133	16		477
構成比	0.2%	11.7%	9.2%	47.6%	27.9%	3.4%	0.0%	100%
その他	2		1	9	4	1		17
無回答		7	4	27	8	1		47
合計	6	114	88	493	319	59	3	1,082
構成比	0.6%	10.5%	8.1%	45.6%	29.5%	5.5%	0.3%	100%

13. 研修受講前と比べて、自分が行っている授業を批判的な態度で反省しながら、絶えず改善するようになった

資料ー表36　批判改善

	批判改善							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	3	22	25	134	275	82		541
構成比	0.6%	4.1%	4.6%	24.8%	50.8%	15.2%		100%
高校	2	18	19	124	259	55		477
構成比	0.4%	3.8%	4.0%	26.0%	54.3%	11.5%		100%
その他	2			2	10	3		17
無回答		4	3	10	27	3		47
合計	7	44	47	270	571	143		1,082
構成比	0.6%	4.1%	4.3%	25.0%	52.8%	13.2%		100%

14. 研修受講前と比べて、生徒の動機付けの方法が変化した

資料ー表37　動機付変化

	動機付変化							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	2	29	35	207	217	51		541
構成比	0.4%	5.4%	6.5%	38.3%	40.1%	9.4%		100%
高校	2	31	30	195	178	41		477
構成比	0.4%	6.5%	6.3%	40.9%	37.3%	8.6%		100%
その他	2			10	4	1		17
無回答		6	4	14	21	2		47
合計	6	66	69	426	420	95		1,082
構成比	0.0%	6.1%	6.4%	39.4	38.8%	8.8%		100%

17. ポートフォリオを有効に活用している

資料ー表38　ポート活用

	ポート活用							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	14	93	94	247	77	10	6	541
構成比	2.6%	17.2%	17.4%	45.7%	14.2%	1.8%	1.1%	100%
高校	24	95	73	222	52	5	6	477
構成比	5.0%	19.9%	15.3%	46.5%	10.9%	1.0%	1.3%	100%
その他	1	4	3	7	2			17
無回答		11	6	17	8	2	3	47
合計	39	203	176	493	139	17	15	1,082
構成比	3.6%	18.8%	16.3%	45.6%	12.8%	1.6%	1.4%	100%

18. 研修受講前に比べて自主研修の目標や方法が明確になった

資料ー表39　自主研修

	自主研修							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	2	31	36	172	227	72	1	541
構成比	0.4%	5.7%	6.7%	31.8%	42.0%	13.3%	0.2%	100%
高校	2	30	27	156	189	71	2	477
構成比	0.4%	6.3%	5.7%	32.7%	39.6%	14.9%	0.4%	100%
その他	1	1	1	5	4	5		17
無回答		2	4	13	19	9		47
合計	5	64	68	346	439	157	3	1,082
構成比	0.5%	5.9%	6.3%	32.0%	40.6%	14.5%	0.3%	100%

19. 自校や周囲の学校の教員間で、授業研究などのコミュニケーションを図る機会が増えた

資料ー表40　授業研究

	授業研究							合計
	該当せず	そう思わない	どちらかというとそう思わない	どちらとも言えない	どちらかというとそう思う	そう思う	無効回答	
中学校	3	81	49	249	128	30	1	541
構成比	0.6%	15.0%	9.1%	46.0%	23.7%	5.5%	0.2%	100%
高校		80	47	216	104	29	1	477
構成比		16.8%	10.0%	45.3%	21.8%	6.1%	0.2%	100%
その他	2	3	1	5	5	1		17
無回答	1	10	4	22	7	3		47
合計	6	174	101	492	244	63	2	1,082
構成比	3.3%	16.1%	9.3%	45.5%	22.6%	5.8%	0.2%	100%

Ⅵ　結果⑵―研修直後のアンケート（自由記述）―1369人の先生の声

今回のアンケートのお答え頂いた全ての先生の自由記述を内容からの15のキーワードを拾って分類した。一人の先生の意見は必ずしも一つのキーワードで分類できるとは限りらない。しかし、複数のキーワードで括ろうとすると分類が非常に多岐にわたる。ここでは、多くの人に読んでもらうために読みやすさを優先し、キーワードを複数つけたり、一人の先生の意見をキーワード毎に分割することはしなかった。

また、記述に関してはできるだけオリジナルを尊重したが、研修を主宰した教育委員会や特定の個人名は、伏せた。これは、各教育委員会のプログラムの比較にならないようにという点と、特定の先生に講演依頼が集中することを避けるためである。また、あえて公開する必要のない個人や団体への非難も固有名詞も同様に伏せた。

この自由記述のまとめが、今後の研修や日本の英語教育の改善につながることを願ってやまない。

1．行く前は不安だった。でも行ってよかった…… 66
2．知恵の実もらった…… 67
3．仲間に出会えた。仲間が教えてくれた…… 77
4．元気の素もらった…… 80
5．反省しています…… 83
6．背中を押してもらった…… 87
7．また、参加したいんですけど…… 106
8．この研修、誇りに思います…… 109
9．やっぱり、テストは…… 110
10. ありがとうございました…… 113
11. こうしたらどうでしょう…… 120
12. 意見を聞いてください…… 143
13. 私の悩みを聞いてください…… 151
14. こんな願いを聞いてくれたら…… 151
15. このアンケートについて…… 155